

「イスラエルに対する戦い（1）」

黙 12：1～6

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10章～14章は、挿入箇所である。

*物語の進展はなく、状況の説明が入る。

*7章と同じである。

*例外は、11：15～19（第7のラッパが吹かれる）だけである。

*第7のラッパの内容は、黙 16：1～21で啓示される。

②黙示録全体の中で12章が最も多くの象徴（シンボル）が登場する章である。

(2) 12章～13章に登場する7人の主役たち（大患難時代の後半）

①ひとりの女：イスラエルの象徴

②赤い竜：サタンの象徴

③男の子：キリストの象徴

④ミカエル：天使長

⑤女の子孫の残りの者：レムナント、真の信仰者たち

⑥海から上って来た獣：反キリスト

⑦地から上って来た獣：偽預言者

(3) 12章で、ヨハネは、サタンとイスラエルの戦いの歴史を振り返り、大患難時代に起こることを預言している。

2. アウトライン

(1) ひとりの女（1～2節）

(2) 赤い竜（3～4節）

(3) 男の子（5～6節）

3. 結論

(1) 悪霊どもの活動について

(2) サタンがイスラエルを破壊しようとする理由について

イスラエルに対する戦い（1）について学ぶ。

I. ひとりの女（1～2節）

1. 1節

Rev 12:1 また、巨大なしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。

(1) 「巨大なしるしが天に現れた」

- ①これは、「大いなるしるし」(口語訳)である。
- ②「しるし」とは、神がなそうとしておられることの象徴である。
*多くの場合、預言的内容が含まれる。
- ③ここでの「しるし」とは、「ひとりの女」のことである。
- ④「しるし」は天に現れたが、それが象徴する出来事は地上で起こる。
*女は赤い竜によって苦しめられる。
- ⑤黙示録では、12:1以外に、「しるし」が6回現れる。
*12:3、13:13~14、15:1、16:14、19:20
- ⑥黙12:1の「しるし」は、「大いなる」という形容詞で他と区別されている。

(2) 「ひとりの女」について、さまざまな解釈がある。

- ①大患難時代の教会のことである。
*これは、置換神学の立場である。
*この立場では、教会は大患難時代の間、地上に存在することになる。
*しかし、教会がキリストを生んだのではない。その逆である。
- ②イエスを生んだマリアのことである。
*これは、カトリック教会の見解である。
*カトリックはマリアの無痛分娩を主張するが、女は陣痛を経験している。

(3) 「ひとりの女」の正しい解釈は、旧約聖書との関連から出て来る。

- ①「太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた」
- ②創37:9~11

Gen 37:9 ヨセフはまた、ほかの夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです」と言った。

Gen 37:10 ヨセフが父や兄たちに話したとき、父は彼をしかって言った。「おまえの見た夢は、いったい何なのだ。私や、おまえの母上、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むとでも言うのか。」

Gen 37:11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心に留めていた。

- ③太陽はヤコブ、月はラケル、11の星は11人の息子たちを象徴している。
- ④「ひとりの女」とは、イスラエルである。
*旧約聖書では、イスラエルは「ヤハウエの妻」として描かれる。

*イザ54:5~6、エレ3:6~8、31:32、エゼ16:32、ホセ2:16

⑤女の姿は、メシア的王国でのイスラエルの栄光に満ちた姿を預言している。

2. 2節

Rev 12:2 この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。

(1) イスラエルがメシアを生み出す前の状況を描写している。

- ①イスラエルの歴史が回顧されている。
- ②イスラエルは、メシア誕生の前に数々の苦難を経験した。

II. 赤い竜(3~4節)

1. 3節

Rev 12:3 また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。

(1) 「別のしるし」

- ①ここでの「しるし」は、大きな赤い竜である。
- ②先に行くと、赤い竜がサタンの象徴だということが明らかになる。
- ③赤は、血を流すのが好きなサタンの性質を表していると思われる。

(2) 「七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた」

- ①これは、異邦人の時代における最後の世界帝国の姿である(サタンが支配する)。
- ②7つの頭と、10本の角については、先に行ってから詳しく学ぶ。

2. 4節

Rev 12:4 その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。

(1) サタンは、自分の支配下にあるすべての悪霊を動員し、メシアの業を妨害する。

- ①「天の星の三分の一」とは、墮落した天使の数である。悪霊の数。
- ②天使の三分の一が、サタンとともに墮落した。
- ③サタンは、メシア誕生に際して、悪霊どもを一か所に召集した。

(2) 竜は、女が子を産むのを待っている。

- ①その子をすぐに破壊するためである。
- ②ベツレヘムの出来事への言及である。

*ベツレヘムの2歳以下の男の子がすべて殺された。

③竜は、当時の覇権国ローマ帝国(サタンに支配されている)である。

④ヘロデ大王は、ローマ帝国の手先として動いた。

III. 男の子(5~6節)

1. 5節

Rev 12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。

(1) 「女は男の子を産んだ」

①イスラエルはメシアを産んだ。

②ここで、メシアの誕生からメシアの昇天まで一挙に飛んでいる。

③「この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである」

*「治めることになっていた」(新共同訳)

*「治めるべき者である」(口語訳)

④これは、詩2:9の預言の成就である。

(2) 「その子は神のみもと、その御座に引き上げられた」

①国々を統治する前に、天に引き上げられる。

②これは、メシアの昇天のことである。

③「男の子」を教会と解釈する人がいる。

*しかし、イスラエルが教会を産んだわけではない。

*また、教会はキリストの花嫁(女性形)であって男の子ではない。

*さらに、教会の使命は国々を統治することではない。

2. 6節

Rev 12:6 女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

(1) ここで、場面は大患難時代に移行する。

①イスラエルは、荒野に逃げる。

②そこには、神によって備えられた場所があった。

③イスラエルはそこで1260日の間守られる。

*3年半である。

(2) イスラエルが荒野に逃げるタイミング

- ①7年の中間で、反キリストはイスラエルとの契約を破棄する。
- ②自分を神と宣言し、自分の像を神殿に置く(2テサ2:4)。
- ②マタ24:16

Mat 24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

- *荒野と山は、同じ場所である。
- *そこは、(ボツラ) ペトラである。
- *ミカ2:12~13 参照

- (2) 5節と6節の間には、長い時間の経過がある。
 - ①教会時代は、この間に過ぎ去っている。
 - ②二重言及の法則に留意すること
 - *同じテーマであれば、時間の経過を無視して列挙される。
 - *旧約聖書のメシア預言は、初臨と再臨が続けて預言される。

結論:

1. 悪霊どもの活動について

- (1) 旧約時代における悪霊の働き
 - ①悪霊の働きは、ほんの数か所にしか出てこない。
- (2) 福音書の時代における悪霊の働き
 - ①悪霊の働きが頻繁に観察される。
 - ②サタンが、世界中にちらばっていた悪霊どもをイスラエルの地に召集した。
 - ③メシアの贖いの業を妨害するためである。
 - ④悪霊は、天使の3分の1の数存在する(黙12:4)。
- (3) 使徒の働き以降の時代になると、悪霊どもは旧約時代の状態に戻る。
 - ①世界中に散って行った。
- (4) 大患難時代になると、悪霊どもの活動が再び活発になる。
 - ①メシアの再臨を妨害するためである。
- (5) 歴史上起こったことを、そのまま私たちに適用してはならない。

2. サタンがイスラエルを破壊しようとする理由について

- (1) 旧約時代における反ユダヤ主義
 - ①イスラエルがメシアを産み出すことを妨害する行為である。
 - ②つまり、メシアの初臨を妨害する行為である。
- (2) 福音書における反ユダヤ主義

- ①メシアによる贖いの業を妨害する行為である。
 - ②メシアは、神が定めた時と方法で死ぬ必要があった。
 - *過越の祭りの時
 - *十字架によって
 - ③サタンは、それを妨害しようとした。
 - ④赤子のイエスを殺そうとした。
 - *赤子のイエスが死んでも、それは贖いの死ではない。
 - ⑤過越の祭り以外のタイミングで、イエスを殺そうとした。
- (3) 教会時代と大患難時代における反ユダヤ主義
- ①メシアの再臨を妨害する行為である。
 - ②イスラエルの民族的救いが、メシア再臨の条件である。
 - ③イスラエルを破壊すれば、メシアの再臨はなくなる。

「イスラエルに対する戦い(2)」

黙12:7~17

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10章~14章は、挿入箇所である。

*物語の進展はなく、状況の説明が入る。

*7章と同じである。

*例外は、11:15~19(第7のラッパが吹かれる)だけである。

*第7のラッパの内容は、黙16:1~21で啓示される。

②今私たちは、12章~13章を取り上げている。

(2) 12章~13章に登場する7人の主役たち(大患難時代の後半)

①ひとりの女:イスラエルの象徴

②赤い竜:サタンの象徴

③男の子:キリストの象徴

④ミカエル:天使長

⑤女の子孫の残りの者:レムナント、真の信仰者たち

⑥海から上って来た獣:反キリスト

⑦地から上って来た獣:偽預言者

(3) 12章で、ヨハネは、サタンとイスラエルの戦いの歴史を振り返ると同時に、大患難時代に起こることを預言している。

①黙12:6で女は荒野に逃げた。

Rev 12:6 女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

②きょうの箇所は、その続きである。

③ただし、黙12:7~12は挿入箇所である。

*大患難時代の間中期に起こることが預言されている。

④黙12:6は12:13につながる。

2. アウトライン

(1) 天での戦い(7~9節)

(2) 天に起こる声(10~12節)

(3) イスラエルを迫害する竜(13~16節)

(4) 女の子孫の残りの者を迫害する竜(17節)

3. 結論

(1) 黙12:9に出て来る悪魔の呼称

(2) 悪魔の経歴と将来

イスラエルに対する戦い(2)について学ぶ。

I. 天での戦い(7~12節)

1. 7~8節

Rev 12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、

Rev 12:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。

(1) 「天に戦いが起こって」

①これは、大患難時代の間中期に起こる戦いである。

②天には3つの種類がある。

*第1の天(鳥が飛ぶ空間)

*第2の天(星が存在する宇宙空間)

*第3の天(神が隣在される超自然の空間)

③ここでは、第3の天で戦いが起こっている。

(2) 戦いの当事者

①「ミカエルと彼の使いたち」

*ミカエルと聖なる天使たちである。

*ミカエルは、イスラエルの守護天使である。

*ダニ12:1と黙12章は、同じ内容の預言である。

Dan 12:1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。

②「竜とその使いたち」

*悪魔と悪霊どもである。

(3) 戦いの結果

①ミカエルと聖なる天使たちが勝った。

②悪魔と悪霊どもは天にいたことができなくなった。

2. 9節

Rev 12:9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

(1) 悪魔は地上に投げ落とされた。

- ①それまでは、悪魔は第3の天に上ることができていた。
- ②ヨブ記1章では、悪魔は第3の天に上り、ヨブを糾弾している。
- ③大患難時代の間中期に、悪魔と悪霊どもは地上に投げ落とされた。
- ④悪魔は、自分に残された時間が3年半しかないことを悟った。
- ⑤地上においてイスラエルに猛攻撃を仕かける理由が、そこにある。

(2) 悪魔の呼称が4つ出て来るが、これは結論で取り上げる。

II. 天に起こる声(10~12節)

1. 10節

Rev 12:10 そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。／「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。

(1) 「天で大きな声が、こう言うのを聞いた」

- ①この声が誰の声なのか、明確ではない。
 - *神の声か。
 - *天使たちの声か。
 - *24人の長老たちの声か。
 - *大患難時代の殉教者たちの声か。
- ②「私たちの兄弟たちの告発者」とある。
 - *この声は、大患難時代の殉教者たちの声であろう。
 - *殉教者たちは、最終的な勝利を待ち望んでいる。
- ③喜びの理由は、信者を神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。

(2) 「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた」

- ①その声は、4つのことが現れたことを喜んでいる。
 - *「私たちの神の救い」
 - ・罪責からの解放のことではなく、神の計画の成就を意味している。
 - *「力」
 - ・神の計画の成就をもたらす神の力である。

* 「国」

・メシア的王国（千年王国）の成就が近いということである。

* 「神のキリストの権威」

・メシア的王国を統治するキリストの権威のことである。

・詩2：2の成就である。

2. 11 節

Rev 12:11 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。

(1) 霊的戦いに勝利するための3つの武器

①小羊の血

*信じる者の罪を赦し、清くする。

②あかしのことば

*サタンの嘘に打ち勝つことばである。

*十字架のことばである。

③全き献身

*自分の命よりもキリストを証言することを重視した。

*スミルナの教会に与えられて命令に従った（黙2：10）。

Rev 2:10 あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。

3. 12 節

Rev 12:12 それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。しかし、地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」

(1) 天での声は続けて言う。

①天に住む者たちは、喜ぶべきである。

②地上に住む者たちは、わざわいが来ることを知るべきである。

*地に落とされた悪魔が、自分の時が短いことを知り、激しく怒る。

(2) 大患難時代の裁きについて

①大患難時代における裁きは、神がもたらすものである。

②しかし、大患難時代における苦難（殉教の死）は、悪魔がもたらすものである。

Ⅲ. イスラエルを迫害する竜(13～16節)

1. 13節

Rev 12:13 自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いかけた。

(1) ここで、12:6と13:13がつながる。

①12:7～12は、挿入箇所であった。

(2) 地上に投げ落とされた悪魔は、ただちにイスラエルを攻撃する。

①悪魔がイスラエルを憎むのは、イスラエルの性質のゆえではない。

②悪魔は、神の計画の中でイスラエルが果たす役割のゆえに、憎むのである。

2. 14節

Rev 12:14 しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。

(1) 「大鷲の翼を二つ与えられた」

①鷲の翼は、イスラエルを守る神の力と忠実さを示す比喩的言葉である。

②出 19:4

Exo 19:4 あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。

③申 32:11

④荒野とは、ヨルダン川の東にある山地のことである。

(2) イスラエルは、荒野で3年半の間、神によって養われる。

①「一時と二時と半時の間」とは、3年半の期間である。

②神の超自然的守りがあるのであろう。

*エリアの例(1列17:5)

3. 15～16節

Rev 12:15 ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。

Rev 12:16 しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。

(1) 「蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、」

①洪水が比喩的言葉として用いられている。

②これは、大軍がイスラエルの後を追ってくるということである。

(2) 「地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した」

①これは、神の超自然的な介入を示す比喩的言葉である。

IV. 女の子孫の残りの者を迫害する竜(17節)

1. 17節

Rev 12:17 **すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。**

(1) 悪魔は、攻撃的を「女の子孫の残りの者」に絞ってくる。

①「神の戒めを守り、」

②「イエスのあかしを保っている者たち」

(2) 次の13章は、悪魔がイスラエルを攻撃する方法についての預言である。

①反キリスト

②偽預言者

結論：

1. 黙12:9に出て来る悪魔の呼称

Rev 12:9 **こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。**

(1) 巨大な竜

①激しい悪意を内に持った存在(巨悪)

②終末時代にサタンが支配する帝国も、竜と呼ばれる。

(2) 古い蛇

①エデンの園でエバを誘惑した存在

(3) 悪魔

①ディアボロス

②糾弾する者、信者を訴える者

(4) サタン

①敵対者

②神に対し、神が創造された良きものに対し、敵対する。

(5) 全世界を惑わす者

①光の天使を装って、人々を惑わす。

②嘘を広めることによって、人々を惑わす。

2. 悪魔の経歴と将来

(1) 悪魔は、アブラハムからイサクが誕生するのを妨害した。

①創12章のエジプトでの出来事。サラはパロの宮廷に召し入れられた。

②創20章のゲラルでの出来事。ゲラルの王アビメレクは、サラを召し入れた。

(2) 悪魔は、ヤコブの子孫を抹殺しようとした。

①エステル記に記されたペルシヤでの物語

(3) 悪魔は、幼子イエスを殺そうとした。

①マタ2章のベツレヘムでの物語

(4) 悪魔は、イエスによって打ち負かされた。

Joh 16:11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

①悪魔に対する裁きは、段階を追って行われる。

(5) 悪魔は、大患難時代の間期に、天から地上に落とされる。

(6) 悪魔は、キリストの再臨を阻止するためにイスラエルを迫害する。

①イスラエルの民族的救いが、再臨の条件である。

(7) 悪魔は、千年の間「底知れぬ所」(アブソス)に閉じ込められる。

①黙20:1~3

(8) 悪魔は、一時解き放たれるが、最後は「火と硫黄との池」に投げ込まれる。

「海からの獣」

黙 13 : 1~10

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10章~14章は、挿入箇所である。

*物語の進展はなく、状況の説明が入る。

*7章と同じである。

②今私たちは、12章~13章を取り上げている。

(2) 12章~13章に登場する7人の主役たち（大患難時代の後半）

①ひとりの女：イスラエルの象徴

②赤い竜：サタンの象徴

③男の子：キリストの象徴

④ミカエル：天使長

⑤女の子孫の残りの者：レムナント、真の信仰者たち

⑥海から上って来た獣：反キリスト

⑦地から上って来た獣：偽預言者

(3) きょうの箇所、大患難時代における最も重要な人物が登場する。

①海から上って来た一匹の獣とは、反キリストのことである。

②黙示録では、反キリストは獣として描写されている（32回）。

③キリストと反キリストが対比されている。

*「Anti」とは、「〇〇に代わって」とか「〇〇に敵対して」という意味。

*キリストは小羊であるが、反キリストは獣である。

*キリストは罪人を救うが、獣は聖徒を迫害する。

*小羊は柔和であるが、獣はどう猛である。

*小羊は愛に溢れているが、獣は残忍である。

(4) 大患難時代の間中期から後半にかけて、偽の三位一体が登場する。

①12章でサタンが登場する（偽の父なる神）。

②13章前半で反キリストが登場する（偽の子なる神）。

③13章後半で偽預言者が登場する（偽の聖霊なる神）。

2. アウトライン

- (1) 獣の形状 (1~2 節)
- (2) 獣の復活 (3~4 節)
- (3) 獣の支配 (5~8 節)
- (4) 励ましのことば (9~10 節)

3. 結論：反キリストはキリストの真似をする。

反キリストの働きについて学ぶ。

I. 獣の形状 (1~2 節)

1. 1 節

Rev 13:1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。

(1) 黙 12 : 18 は、13 : 1 に含まれるべきものである。

Rev 12:18 そして、彼は海への砂の上に立った。

①海から獣が上がってくる。

(2) ダニエル書 2 章 (ネブカデネザルが夢で見た大きな像の幻)

*人間の視点から見た異邦人世界の帝国の歴史

(3) ダニエル書 7 章 (ダニエルが見た 4 つの幻)

①第 1 の幻 : 3 頭の大きな獣

*第 1 の獣は獅子のようだが、鷲の翼をつけていた (バビロン帝国)。

*第 2 の獣は熊に似ているが、きばの間には 3 本の肋骨があった (メド・ペルシヤ連合帝国)

*第 3 の獣は豹のようだが、背には 4 つの翼があり、4 つの頭があった (ギリシア帝国)

②第 2 の幻 : 第 4 の獣 (帝国主義)

*いかなる獣にもたとえられない異様な姿をしていた。

*大きな鉄のきばと 10 本の角を持っていた (10 本の角は 10 人の王)。

*11 本目の小さな角が出てきて、初めの角のうち 3 本が引き抜かれた。

*この小さな角は人格を持ち、豪語する口を持っていた (反キリスト)。

③第 3 の幻 : 天の法廷

④第 4 の幻 : 人の子のような方

(4) 黙 13 : 1 の獣は、ダニエル書 7 章の第 2 の幻に登場する第 4 の獣と同じである。

- ① 獣は、反キリスト自身であり、反キリストが支配する帝国でもある。
- ② 反キリストは、異邦人世界から登場する。

(5) 「十本の角」

- ① 動物は角を武器にして戦う。
- ② 角は、力と支配の象徴である。
- ③ 角は、王国や王を象徴する言葉である。
- ④ 反キリストは、10ヶ国連合の帝国主義から登場する。
- ⑤ 角にある 10 の冠は、統治権の象徴である。

(6) 「7つの頭」

- ① 第 4 の帝国の 7 つの発展段階を指す。
- ② 第 7 の頭が、反キリストの統治段階である。
- ③ 「神をけがす名」とは、反キリストの性質を表す名である。

2. 2 節

Rev 13:2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。

(1) ダニエル書 7 章

- ① 獅子、熊、ひょうの順番に登場した。
- ② ダニエル書では、将来の歴史を展望している。

(2) 黙示録 13 : 2

- ① ひょう、熊、獅子の順番になっている。
- ② 黙示録では、過去を振り返っている。
- ③ 第 4 の帝国には、その前の 3 つの帝国の特徴が残っている。
* 非常にどう猛で力がある。

(3) 竜 (サタン) は、この獣に自分が持っている力と位と権威を与えた。

- ① どう猛な獣 (反キリスト) は、さらに力を得た。
* 反キリストの最終的な力は、サタンから来る。
* 偽の三位一体の「偽の子なる神」が誕生した。

② キリストは、サタンの申し出を拒否された (マタ 4 : 8~10)。

Mat 4:8 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその

栄華を見せて、

Mat 4:9 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」

Mat 4:10 イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。」

II. 獣の復活 (3~4 節)

1. 3~4 節

Rev 13:3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、

Rev 13:4 そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」と言った。

(1) 「その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、」

- ①ネロ、イスカリオテのユダ、ムッソリーニ、ヒトラー、スターリンなど？
- ②文脈上は、過去の人物ではなく、将来登場する反キリストである。
- ③反キリストは、殺される。

(2) 「その致命的な傷も直ってしまった」

- ①反キリストは、復活する。
- ②反キリストは重傷を負っただけだと主張する学者もいる。
- ③黙5:6に「ほふられたと見える小羊」という言葉が出ている。
- ④「打ち殺されたかと思われた」は、死んだことを意味する。
- ⑤復活した反キリストは、2人の証人を殺す（黙11:7で学んだ）。

Rev 11:7 そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。

(3) 地上の人たちは、超自然的な力を発揮した獣に従うようになる。

- ①反キリスト復活のニュースは世界を巡ることであろう。
- ②復活した2人の証人は、天に上げられて地上にはいない。
- ③人々の関心は、復活した反キリストに向かう。

(4) さらに、人々は竜を拝むようになる。

- ①サタンは、自らを神とし、礼拝されることを願う。

*イザ14:12~17、エゼ28:11~19

- ②人々は、反キリストを通してサタンを礼拝するようになる。

③「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」

④出15:11との対比

Exo 15:11 【主】よ。神々のうち、／だれかあなたのような方がいるでしょうか。／だれがあなたのように、聖であって力強く、／たたえられつつ恐れられ、／奇しいわざを行うことができますでしょうか。

Ⅲ. 獣の支配 (5～8 節)

2. 5～6 節

Rev 13:5 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。

Rev 13:6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。

(1) 反キリストは、大患難時代の間で自らを神とする。

①最初は、世界の問題を解決するダイナミックなリーダーとして登場する。

②しかし、途中から傲慢なことやけがしごとを言う。

③ついに、自分の像を神殿に置き、礼拝を迫る (マタ 24:15 参照)。

④2テサ 2:4

2Th 2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

(2) けがしごとを言う対象

①神の御名

*神の存在そのもの

②幕屋 (天とそこに住む者たち)

*天使と聖徒たち

2. 7～8 節

Rev 13:7 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。

Rev 13:8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拜むようになる。

(1) 反キリストは、聖徒たちを迫害する。

①さらに多くの殉教者たちが出る。

②黙 6:11 参照

③ユダヤ人も、異邦人の信者も迫害される。

(2) 反キリストによる世界統治

①政治的統治

②経済的統治

③宗教的統治

(3) 天と地の対比

①天にいる者たちは、神と小羊を礼拝する。

②地にいる者たちは、悪魔と反キリストを礼拝する。

(4) 救われる者の名は、永遠の昔から小羊のいのちの書に記されている。

①エペ1:4参照

②そうでない者は、悪魔と反キリストを礼拝するようになる。

IV. 励ましのことば (9~10節)

1. 9節

Rev 13:9 耳のある者は聞きなさい。

(1) 黙2~3章の7つの教会への勧告と似ている。

Rev 2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。

①ここでは、より簡単なことばになっている。

②教会はすでに携挙されている。

2. 10節

Rev 13:10 とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。

(1) 神の正義は必ず行われる。

①反キリスト、偽預言者、反キリストの手先は、燃える火の池に投げ込まれる。

(2) 聖徒たちは、神の正義がなることを確信して生きる。

①忍耐と信仰を保持するための根拠となる。

結論：反キリストはキリストの真似をする。

1. キリストは神である。反キリストは、自らを神と宣言する。

(1) ヨハ10:36

Joh 10:36 『わたしは神の子である』とわたしが言ったからといって、どうしてあなたがたは、父が、聖であることを示して世に遣わした者について、『神を冒瀆している』と言うのですか。

(2) 2テサ2:4

2Th 2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

2. キリストは奇跡を行われた。反キリストはその真似をする。

(1) マタ9:32~33

Mat 9:32 この人たちが出て行くと、見よ、悪霊につかれて口のきけない人が、みもとに連れて来られた。

Mat 9:33 悪霊が追い出されると、その人はものを言った。群衆は驚いて、「こんなことは、イスラエルでいまだかつて見たことがない」と言った。

(2) マタ24:24

Mat 24:24 にせキリスト、にせ預言者たちが現れて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。

(3) 2テサ2:9~10

2Th 2:9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、

2Th 2:10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

3. キリストは多くの王冠をかぶられる。反キリストは10の王冠をかぶる。

(1) 黙19:12

Rev 19:12 その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。

(2) 黙13:1

Rev 13:1 また私は見た。海から一匹の獣が上つて来た。これには十本の角と七つの頭とがあつた。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があつた。

4. キリストは白い馬に乗られる。反キリストも白い馬に乗る。

(1) 黙19:11

Rev 19:11 また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実ま

た真実」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。

(2) 黙6:2

Rev 6:2 私は見た。見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。

5. キリストは復活された。反キリストも復活する。

(1) マタ28:6

Mat 28:6 ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。

(2) 黙13:3

Rev 13:3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、

6. 私たちへの適用

(1) 反キリストの霊は、今も働いている。

(2) それゆえ、常にすべての教理を吟味する必要がある。

(3) 聖書に親しんでいるなら、感覚的に非聖書の教理をキャッチすることができる。

(4) その上で、厳密にみことばに照らして学べばよい。

「地からの獣」

黙 13 : 11~18

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10章~14章は、挿入箇所である。

*物語の進展はなく、状況の説明が入る。

*7章と同じである。

②今私たちは、12章~13章を取り上げている。

(2) 12章~13章に登場する7人の主役たち(大患難時代の後半)

①ひとりの女: イスラエルの象徴

②赤い竜: サタンの象徴

③男の子: キリストの象徴

④ミカエル: 天使長

⑤女の子孫の残りの者: レムナント、真の信仰者たち

⑥海から上って来た獣: 反キリスト

⑦地から上って来た獣: 偽預言者

(3) きょうの箇所、偽の三位一体が完成する。

①12章でサタンが登場する(偽の父なる神)。

*赤い竜

②13章前半で反キリストが登場する(偽の子なる神)。

*海からの獣

③13章後半で偽預言者が登場する(偽の聖霊なる神)。

*地からの獣

(4) 終わりの時代に登場する多くの偽預言者は、サタンのスポークスマンである。

①マタ 24 : 24

Mat 24:24 にせキリスト、にせ預言者たちが現れて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしや不思議なことをして見せます。

②1テモ 4 : 1

1Ti 4:1 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。

③黙示録 13章に登場する偽預言者は、究極の偽預言者である。

2. アウトライン

- (1) 獣の形状 (11～12 節)
- (2) 獣が行う奇跡 (13～15 節)
- (3) 獣の刻印 (16～18 節)

3. 結論

- (1) 「しるし」とは何か。
- (2) クリスマンも偽預言者によって惑わされるか。

偽預言者の働きについて学ぶ。

I. 獣の形状 (11～12 節)

1. 11 節

Rev 13:11 また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。

(1) 「もう一匹の獣が」

- ① 「もう一匹の獣」(新改訳)(新共同訳)、「ほかの獣」(口語訳)
- ② 「アロス」(ギリシア語): 同じ性質を持った別のもの
- ③ 海からの獣(反キリスト)と地からの獣(偽預言者)は、同じ性質を持つ。
 - *キリストと聖霊は同じ性質を持っておられる。
 - *反キリストと偽預言者は同じ性質を持っている。
- ④ 反キリストと偽預言者は、ともに獣と呼ばれている。
- ⑤ 黙示録には、偽預言者という言葉が3度出て来る。
 - *黙 16:13、19:20、20:10

(2) 「地から上って来た」

- ① 「地」を約束の地と解釈し、この獣をユダヤ人と解釈する学者たちがいる。
- ② これは特定の「地」ではない。
- ③ むしろ、「天」と「地」が対比されていると解釈すべきである。
 - *聖霊は、天から下って来られる。
 - *偽預言者は、地から上って来る。

(3) 「それには小羊のような二本の角があり、」

- ① 反キリストは、政治的、経済的支配者である。

②偽預言者は、「小羊のような」と表現されている。

*宗教的支配者で、反キリストを支援する。

*黙示録の中で、小羊がキリスト以外の人物を指すのは、ここだけである。

(4)「竜のようにものを言った」

①反キリストと同じように、偽預言者も竜(サタン)によって力を受けている。

②見かけは小羊のようであっても、その性質は竜のようである。

*反キリストと協力して、3年半の間、地上に患難をもたらす。

③優れたコミュニケーターである。説得力がある。

2. 12節

Rev 13:12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。

(1) 反キリストと偽預言者の力は、サタンから与えられたものである。

①偽預言者は、反キリストの代弁者として語り、行動する。

(2) 偽預言者の活動のゴールは、人々に反キリストを礼拝させることである。

①反キリストは、復活する。

②偽預言者は、地に住む人々に復活した反キリストを拝ませる。

*偽預言者たちは、人々に神以外のものを礼拝させるために活動する。

*大患難時代に登場する偽預言者は、「ザ・偽預言者」である。

II. 獣が行う奇跡(13~15節)

1. 13節

Rev 13:13 また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行なった。

(1) 偽預言者は、大きなしるし(複数形)を次々に行う。

①天から地に火を降らせることは、大きなしるしのひとつである。

(2) 天からの火

①創19:24~25 【主】は、ソドムとゴモラの上に硫黄の火を降らせた。

②出9:23~24 モーセは、エジプトの上に雹と火を降らせた。

③1列18:38 カルメル山で【主】の火が降って来た。

④2列1:9~12 エリヤは、アハズヤ王の兵士たちの上に火を降らせた。

2. 14節

Rev 13:14 また、あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。

(1) 偽預言者は、しるしをもって地上に住む人々を惑わす。

①「惑わす」とは、真理から遠ざける、誤った教理に導く、などの行為である。

(2) 偽預言者の背後にいるサタンは、もともと嘘つきである。

①ヨハ8:44

Joh 8:44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

(3) パウロによれば、反キリストは神殿の座に着く

①2テサ2:4

2Th 2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

(4)

①偽預言者は、反キリストの像を造るよう人々に命じる。

②この像は、反キリストがエルサレムにいない時の礼拝の対象である。

③人々は、「しるし」によって洗脳されていたので、喜んでその像を造る。

④この像は、大患難時代の間中期に神殿に安置され、1290日の間そこに留まる。

⑤ダニ12:11

Dan 12:11 常供のささげ物が取り除かれ、荒らす忌むべきものが据えられる時から千二百九十日がある。

⑥マタ24:15~16

Mat 24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

Mat 24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

3. 15節

Rev 13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

(1) 偽預言者は、反キリストの像に超自然的な力を与える。

- ① ロボットのようなものが喋るのではなく、それ以上の不思議なことが起こる。
 - ② 旧約聖書では、偶像は喋らないものとされていた。
- (2) 偽預言者は、像に息を吹き込む。
- ① いのちを与えたのではなく、息を吹き込んだだけである。
 - ② その結果、獣がものを言うようになった。
 - ③ それを見て、人々は像が活着ているかのように錯覚した。これも惑わしである。
- (3) 像を拝まない者は、みな殺される。
- ① 偽預言者のゴールは、人々に反キリストを礼拝させることである。
 - ② 反キリストを神と認めない者は、みな殺される。

Ⅲ. 獣の刻印 (16～18 節)

1. 16～17 節

Rev 13:16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。

Rev 13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

- (1) 大患難時代における 2 種類の印
- ① 額に印を押された 144,000 人のユダヤ人たち (黙 7 : 2～4)
 - ② 反キリストの刻印を右の手か額かに受けた人々
 - * 反キリストの刻印は、神の印のパロディのようである。
 - * 聖霊は、信じた者に「聖霊の証印」を押してくださる。
 - * 偽預言者 (偽の聖霊) は、偽の証印 (獣の刻印) を押す。
- (2) 反キリストの刻印を受けるとどうなるか。
- ① 反キリストへの従順を表明したことになる。
 - * 経済活動が許される。生きることが許される。
 - ② しかし、神の怒りを受けることになる。
 - * 黙 14 : 9～11 がそう警告している。
- (3) その刻印は、経済活動をするための許可証となる。
- ① 刻印は、獣の名である。
 - ② 獣の名は、数字に換算できる。

- ③これは、世界統一の銀行システムやクレジットカードではない。
- ④全員が同じ「しるし」を身に受けるのである。
(例話) ポーランドのユダヤ人たちは「かぎ十字」のない身分証明書を渡された。

2. 18節

Rev 13:18 ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

(1) 「ここに知恵がある」

- ①「ここに知恵が必要である」(新共同訳)
- ②「ここに、知恵が必要である」(口語訳)
- ③反キリストが登場した時に、それを見分けるためには知恵がいる。

(2) 「その獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである」

- ①反キリストの名前を数字に換算する。
 - *彼は人であり、名前を持っている。
 - *ヘブル語のアルファベットは、数字に換算できる。
- ②その名前は、666になる。
(例話) 中川健一の数字は、苗字が260、名前が166、合計426。

結論：

1. 「しるし」とは何か。

- (1) ギリシア語で「セイメイオン」である。
 - ①メッセージを含んだ奇跡のことである。
 - ②その奇跡が、何かを証言しているのである。

(2) イエスの奇跡

- ①イエスのご自身が主張された通りの方であることを証明している。
- ②ヨハ2:11

Joh 2:11 イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

③ヨハ14:11

Joh 14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。

(3) 使徒たちの奇跡

①彼らは、神からの真実な使者であることを証明している。

②ヘブ2:3~4

Heb 2:3 私たちがこんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、どうしてのがれることができましょう。この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、確かなものとしてこれを私たちに示し、

Heb 2:4 そのうえ神も、しるしと不思議とさまざまの力あるわざにより、また、みこころに従って聖霊が分け与えてくださる賜物によってあかしされました。

(4) 偽預言者の奇跡

①これは、本物の奇跡ではなく、欺きである。

②自分は神だという反キリストの主張を証明するための欺きである。

③2テサ2:9~10

2Th 2:9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、

2Th 2:10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

2. クリスマンも偽預言者によって惑わされるか。

(1) 大患難時代に地上に住む人々は、惑わされる。

①黙13:14

Rev 13:14 また、あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。

(2) クリスマンも惑わされる。

①エゼ34:5~6

Eze 34:5 彼らは牧者がいないので、散らされ、あらゆる野の獣のえじきとなり、散らされてしまった。

Eze 34:6 わたしの羊はすべての山々やすべての高い丘をさまよい、わたしの羊は地の全面に散らされた。尋ねる者もなく、捜す者もない。

②マタ7:15~16

Mat 7:15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。

Mat 7:16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。

③聖書に根差していないクリスチャンは、特に狙われやすい。

(3) 黙 13 章は、千年期後再臨説が非現実的な希望であることを証明している。

①時代は、大患難時代に向かっている。

②それゆえ、キリストの再臨にも近づいている。

(4) 1テサ5:16~18

1Th 5:16 いつも喜んでいなさい。

1Th 5:17 絶えず祈りなさい。

1Th 5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

「天からの7つの宣言（1）」

黙 14 : 1~8

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10章~14章は、挿入箇所である。

②10章~13章では、大患難時代の中間に起こる数々の出来事が取り扱われた。

③15章~16章では、大患難時代後半の3年半に起こる出来事が取り上げられる。

④14章は、10章~13章と15章~16章の「つなぎ役」を果たしている。

*14章の内容は、7つの宣言として出て来る。

*未来完了形の宣言である。

(2) 14章の内容とそれが啓示された目的

①偽の三位一体の目的は、必ず失敗することを示すため。

*イスラエル民族を抹殺しようとする試みは、失敗に終わる。

②「鉢の裁き」（15~16章）の結果がどのようなものであるかを示すため。

③大患難時代の後半を生きる聖徒たちに、励ましを与えるため。

2. アウトライン

(1) 第一の宣言：シオンの山の上の144,000人（1~5節）

(2) 第二の宣言：永遠の福音（6~7節）

(3) 第三の宣言：バビロンの崩壊（8節）

(4) 第四の宣言：獣を拝む者たち（9~11節）

(5) 第五の宣言：聖徒たち（12~13節）

(6) 第六の宣言：刈り取り（14~16節）

(7) 第七の宣言：神の激しい怒り（17~20節）

3. 結論

(1) シオンの山

(2) 小羊に従う人

(3) 口に偽りのない人

黙示録14章の7つの宣言について学ぶ。

I. 第一の宣言：シオンの山の上の144,000人（1~5節）

1. 1節

Rev 14:1 **また私は見た。見よ。小羊がシオンの山の上に立っていた。また小羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には小羊の名と、小羊の父の名とがしるしてあった。**

(1) ヨハネは、キリストの再臨後の状況を見ている。

- ①実際にキリストの再臨が起こるのは、19章になってからである。
- ②この幻は、キリストの再臨後に成就する千年王国の先取りである。
- ③将来起こる事を、今起こっていることと見なすのは、ヘブルの手法である。
 - *これは、神の約束は必ず成就するという事を保証するためである。

(2) 小羊と144,000人のユダヤ人たちがシオンの山の上に立っていた。

- ①小羊とは、神の小羊イエスのことである。
- ②144,000人とは、全世界に福音を伝えたユダヤ人たちである。
- ③シオンの山とは、文字通り、地上のエルサレムにある山である。
 - *神殿が建設された丘をシオンの山と呼ぶ。
- ④144,000人の額にある「しるし」は、彼らを迫害から守るためのものであった。
 - *黙7:3~4では、「印」と呼ばれていた。
 - *ここでは、「小羊の名と、小羊の父の名」と、より詳細に啓示されている。
 - *彼らは、大患難時代の終わりの時点でも生きている。
 - *キリストの再臨後、そのまま千年王国に入るように招かれる。
 - *偽の三位一体の試みは失敗に終わる。

2. 2~3節

Rev 14:2 **私は天からの声を聞いた。大水の音のようで、また、激しい雷鳴のようであった。また、私の聞いたその声は、立琴をひく人々が立琴をかき鳴らしている音のようでもあった。**

Rev 14:3 **彼らは、御座の前と、四つの生き物および長老たちの前とで、新しい歌を歌った。しかし地上から贖われた十四万四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかった。**

(1) 「私は天からの声を聞いた」

- ①声は絵画的に描写されている。
 - *大水の音のようで、激しい雷鳴のようであった。
 - *立琴をかき鳴らしている音のようでもあった。

(2) 御座の前で144,000人が新しい歌を歌った。

- ①彼らは、御座の前と、4つの生き物および長老たちの前とで歌った。
- ②これは、神の恵みと勝利を称える歌である。

(3) 144,000人だけがこの歌を学ぶことができた。

- ①144,000人は、大患難時代の全期間を通過したので、その歌の意味が分かる。
- ②144,000人以外にも、大患難時代の終わりに地上に存在する聖徒たちがいる。

3. 4～5節

Rev 14:4 彼らは女によって汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。彼らは、小羊が行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神および小羊にささげられる初穂として、人々の中から贖われたのである。

Rev 14:5 彼らの口には偽りがなかった。彼らは傷のない者である。

(1) 彼らは、独身で神に仕える人たちである。

- ①大患難時代は、結婚して子どもを育てる時代ではない。
- ②彼らは、神への奉仕に集中することができた。

(2) 彼らは、主イエスに忠実に歩んだ人たちである。

- ①小羊が行く所には、どこにでもついて行った。

(3) 彼らは、初穂である。

- ①「初穂」とは、それに続く人たちがいるということを示している。
- ②144,000人は、大患難時代の始まりに救われた。
- ③イスラエル民族は、大患難時代の最後に救われる。
- ④大患難時代の途中で救われるユダヤ人たちもいる。

(4) 彼らは、その口に偽りがなかった。

- ①大患難時代には、偽りの情報が拡散した。
- ②彼らは、真実だけを宣べ伝えた。

(5) 彼らは、傷のない者であった。

- ①外側にも内側にも汚れがなかった。

II. 第二の宣言：永遠の福音(6～7節)

1. 6節

Rev 14:6 また私は、もうひとりの御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は、地上に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。

(1) ここで別の場面が展開する。

- ①第二の宣言の内容は、悔い改めへの招きである。
- ②ヨハネは、もうひとりの天使が中天を飛ぶのを見た。第一の天である。
- ③全世界に住む人たちに直接語りかけるためである。

(2) 天使は、永遠の福音を携えていた。

- ①永遠に変わる事のないメッセージ
- ②永遠の結果をもたらすメッセージ
- ③そのメッセージは、福音(グッドニュース)である。
- ④大患難時代に地上に住む人たちが、もう一度福音を聞く機会が与えられる。

2. 7節

Rev 14:7 彼は大声で言った。「神を恐れ、神をあがめよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源を創造した方を拝め。」

(1) 天使の宣言の内容

- ①神の最後の裁きがすぐにでも下ろうとしている。
- ②それゆえ、神に立ち返れ。
- ③信仰者のあるべき姿は、神を恐れ、神をあがめることである。
- ④ルカ 12:5

Luk 12:5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。

(2) 被造物のあるべき態度

- ①天と地と海と水の源を創造した方を拝むことである。
- ②そのお方は、誰にとっても「天の父」である。

III. 第三の宣言：バビロンの崩壊(8節)

1. 8節

Rev 14:8 また、第二の、別の御使いが続いてやって来て、言った。「大バビロンは倒れた。倒れた。激しい御怒りを引き起こすその不品行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた者。」

(1) 第三の宣言は、第二の天使によってもたらされた。

- ①その内容は、バビロン崩壊の預言である。

(2) バビロンは文字通りのバビロンである。

- ①バビロンは、神への冒瀆と不道徳を象徴する町である。
- ②再建されたバビロンは、反キリストが支配する世界の政治的中心地となる。
- ③ここでは、バビロンが擬人法で、誘惑する女として描写されている。
*人々を不品行に導いた張本人である。

- (3) 大バビロン崩壊の預言は、黙示録17～18章のテーマである。
 - ①「倒れた」が繰り返されているのは、それが確実であるという意味である。
 - ②これは、大患難時代を通過するようになる聖徒たちへの励ましである。

結論：

1. シオンの山

- (1) 終末論におけるエルサレムの重要性
- (2) 旧約聖書

①2サム5:7

2Sa 5:7 しかし、ダビデはシオンの要害を攻め取った。これが、ダビデの町である。

②詩48:1～2(コラの子たちの賛歌)

Psa 48:1 【主】は大いなる方。大いにほめたたえられるべき方。／その聖なる山、われらの神の都において。

Psa 48:2 高嶺の麗しさは、全地の喜び。／北の端なるシオンの山は大王の都。

③イザ2:2～3

Isa 2:2 終わりの日に、／【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、／丘々よりもそびえ立ち、／すべての国々がそこに流れて来る。

Isa 2:3 多くの民が来て言う。／「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。／主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。／私たちはその小道を歩もう。」／それは、シオンからみおしえが出、／エルサレムから【主】のことばが出るからだ。

④ミカ4:1～2

Mic 4:1 終わりの日に、／【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、／丘々よりもそびえ立ち、／国々の民はそこに流れて来る。

Mic 4:2 多くの異邦の民が来て言う。／「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。／主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。／私たちはその小道を歩もう。」／それは、シオンからみおしえが出、／エルサレムから【主】のことばが出るからだ。

④ヨエ2:32

Joe 2:32 しかし、【主】の名を呼ぶ者はみな救われる。／【主】が仰せられたように、／シオンの山、エルサレムに、／のがれる者があるからだ。／その生き残った者のうちに、／【主】

が呼ばれる者がいる。

2. 小羊に従う人

(1) 144,000人は、すべての信仰者にとって模範である。

(2) 聖書研究と実践は、車の両輪である。

(3) 私たちは、妥協なき実践に召されている。

①マタ 16:24

Mat 16:24 それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

②ヨハ 10:27

Joh 10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。

③ヨハ 12:26

Joh 12:26 わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます。

3. 口に偽りのない人

(1) 144,000人の人たちは、口に偽りにない人たちである。

(2) 旧約聖書

①詩 51:6

Psa 51:6 ああ、あなたは心のうちの真実を喜ばれます。／それゆえ、私の心の奥に知恵を教えてください。

②箴 14:25

Pro 14:25 誠実な証人は人のいのちを救い出す。／欺く者はまやかしを吹聴する。

③ゼカ 8:16

Zec 8:16 これがあなたがたのしなければならないことだ。互いに真実を語り、あなたがたの町囲みのうちで、真実と平和のさばきを行え。

(3) 新約聖書

①1 ペテ 3:10~11

1Pe 3:10 「いのちを愛し、／幸いな日々を過ごしたいと思う者は、／舌を押さえて悪を言わず、／くちびるを閉ざして偽りを語らず、

1Pe 3:11 悪から遠ざかって善を行い、／平和を求めてこれを追い求めよ。

②2 テモ 4:2

2Ti 4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやいなさい。寛容を尽

くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

*真実を伝えることが重要である。「みことばを宣べ伝える」

*「しっかりやりなさい」とは、緊急性をもって、という意味である。

*これは、常識的な判断を排除するものではない。

*マタ7:6

Mat_7:6 聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから。

「天からの7つの宣言(2)」

黙14:9~20

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10章~14章は、挿入箇所である。

②10章~13章では、大患難時代の中間に起こる数々の出来事が取り扱われた。

③15章~16章では、大患難時代後半の3年半に起こる出来事が取り上げられる。

④14章は、10章~13章と15章~16章の「つなぎ役」を果たしている。

*14章の内容は、7つの宣言として出て来る。

*未来完了形の宣言である。

(2) 14章の内容とそれが啓示された目的

①偽の三位一体の目的は、必ず失敗することを示すため。

*イスラエル民族を抹殺しようとする試みは、失敗に終わる。

②「鉢の裁き」(15~16章)の結果がどのようなものであるかを示すため。

③大患難時代の後半を生きる聖徒たちに、励ましを与えるため。

2. アウトライン

(1) 第一の宣言：シオンの山の上の144,000人(1~5節)

(2) 第二の宣言：永遠の福音(6~7節)

(3) 第三の宣言：バビロンの崩壊(8節)

(4) 第四の宣言：獣を拝む者たち(9~11節)

(5) 第五の宣言：聖徒たち(12~13節)

(6) 第六の宣言：刈り取り(14~16節)

(7) 第七の宣言：神の激しい怒り(17~20節)

3. 結論

(1) 永遠の滅び

(2) 7つの祝福の約束

黙示録14章の7つの宣言について学ぶ。

I. 第四の宣言：獣を拝む者たち(9~11節)

1. 9節

Rev 14:9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、

- (1) 第3の天使が、第4の宣言を発する。
 - ①これは、獣の刻印を受ける者への裁きの宣言である。
 - ②同時に、信者への励ましの宣言である。

(2) 「獣の刻印を受けるなら」

- ①獣(反キリスト)の刻印は、額か手かに押される。
 - *神の刻印のパロディである。
- ②これは、獣を神として永遠に受け入れたというしるしである。
- ③黙 13:17

Rev 13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

- ④獣の刻印を身に受けると、もはや救われる可能性がなくなる。
- ⑤ある人たちは、携挙以降に救われる人はいないと考えている。
- ⑥しかし、大患難時代においても救われる人が出る。
- ⑦獣の刻印を受けると、回帰不能点を越えたことになる。
 - *救いの可能性が消滅する。

(3) 2テサ 2:8~12

2Th 2:8 その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。

2Th 2:9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、

2Th 2:10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

2Th 2:11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。

2Th 2:12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。

- ①「不法の人」とは、反キリストである。
- ②彼の背後にはサタンがいるので、さまざまな奇跡を行うことができる。
- ③真理を拒む人たちは反キリストに欺かれる。
- ④反キリストを受け入れる人たちは神の裁きに会う。

2. 10~11節

Rev 14:10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲

む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。

Rev 14:11 **そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。**

(1) 「神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒」

- ①これは、「鉢の裁き」のことである。
- ②「鉢の裁き」は、獣の刻印を受け取った人たちに向けられたものである。
- ③劇的表現が用いられている。「混ぜ物のない本物のぶどう酒」
 - *恵みや憐みの要素が全くない。
 - *永遠の苦しみを意味している。

(2) 「聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる」

- ①これは、「燃える火の池」での苦しみである。
- ②自分たちが拒否したお方の前での苦しみである。

(3) 「そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る」

- ①この苦しみは、永遠に続く。
- ②彼らは、無知のゆえに苦しむのではない。
- ③彼らは、福音のメッセージを2度にわたって拒否した。
 - *144,000人の伝道
 - *第2の宣言で、第1の天使が福音を伝えた(6~7節)。
- ④彼らは、獣の刻印を受けることを自ら選んだのである。

II. 第五の宣言：聖徒たち(12~13節)

1. 12節

Rev 14:12 **神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」**

(1) 獣の刻印を受けた人々への裁きの宣告は、聖徒たちには励ましとなる。

- ①ここには、迫害の中でもキリストを信じ続けよというメッセージがある。
- ②殉教の死を遂げる者や、隠れ場に身を潜める者も出る。
- ③しかし、彼らの最後は、獣の刻印を受ける者の最後よりも素晴らしい。

(2) 信仰と行動が合致する必要がある。

- ①どの時代にも当てはまるが、特に、大患難時代がそうである。
- ②信じているが、とりあえず獣の刻印は受けておくというのは、だめ。

2. 13節

Rev 14:13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

(1) ヨハネは天からの声を聞いた。

- ① 天使を仲介としたものではなく、神からの直接の声である。
- ② 伝達内容が重要な場合、神が直接お語りになる。
- ③ この声は、イエス・キリストの声であろう。

(2) 2重の祝福が宣言される。

① 「今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである」

* 殉教の死を遂げる者には祝福が約束されている。

② 「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである」

* これは、聖霊の声である。

* 彼らにとっては、殉教の死は迫害や苦難からの解放である。

* 永遠の休息と永遠の苦しみの明らかな対比がある。

* 死者一般への適用ではなく、大患難時代の殉教者への約束である。

Ⅲ. 第六の宣言：刈り取り (14～16節)

1. 14節

Rev 14:14 また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた。頭には金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられた。

(1) 「また、私は見た」

① 新しいテーマに移行する。

② 第6の宣言と第7の宣言で、2種類の「刈り取り」が啓示される。

* ある人たちは、ともに罪人たちの刈り取りと解釈する。

・ 第6の宣言は、一般的な刈り取り。

・ 第7の宣言は、最終的な刈り取り。

* 別の人たちは、信者たちの刈り取りと罪人たちの刈り取りと解釈する。

③ ここでは、第6の宣言は信者の刈り取りと解釈する。

* 「刈り取り」は、救いを表現する際に使用する言葉である。

* 大患難時代の後半に、霊的リバイバルが起こると解釈する。

(2) 「白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた」

- ① 「白い雲」は、シャカイナグローリーである。
- ② 「人の子のような方」とは、イエス・キリストである。
*これは、メシアの称号である。

(3) 「手には鋭いかまを持っておられた」

- ① 霊的収穫を集めるためのかまである。

2. 15～16節

Rev 14:15 すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物は実ったので、取り入れる時が来ましたから。」

Rev 14:16 そこで、雲に乗っておられる方が、地にかまを入れると地は刈り取られた。

- (1) もうひとりの天使が、キリストに懇願する。
 - ① 収穫の時が来たので、刈り取ってください。
- (2) その願いに答えて、キリストが地にかまを入れ、地を刈り取る。
 - ① 大患難時代の後半でも、救われる人が多く出る。

IV. 第七の宣言：神の激しい怒り（17～20節）

1. 17～18節

Rev 14:17 また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、鋭いかまを持っていた。

Rev 14:18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」

- (1) 鋭いかまを持つ天使が、天の聖所から出てきた。
 - ① これは、罪人たちの刈り取りである。
 - ② 火を支配する権威を持った天使が、先の天使に刈り取りを懇願する。
 - ③ かまを持った天使は、それを実行する。

2. 19～20節

Rev 14:19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。

Rev 14:20 その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンの広がった。

(1) 「酒ぶねに投げ入れた」

- ①酒ぶねに投げ入れることや酒ぶねを踏むことは、神の裁きの象徴である。
- ②神の怒りの内容が、次に出て来る「鉢の裁き」である。

(2) 「血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった」

- ①これは、ハルマゲドンの戦いの結果の描写である。
- ②「酒ぶねが都の外で踏まれた」は、エルサレムの外での裁きを指している。
 - *オリーブ山と城壁の間にあるヨシャパテの谷(ケデロンの谷)
- ③大量の血が流される。
 - *ぶどう液ではなく、血が流れ出す。
 - *馬のくつわに届くほどになる。
 - *流れて行く長さは、約300キロメートルにも及ぶ。

結論：

1. 永遠の滅び

(1) 永遠の滅び(苦しみ)という教えは、人間的には到底耐えられないものである。

- ①それゆえ、その教えを認めない人もいる。
- ②逃げ道として、魂の消滅を主張する人もいる。
- ③最終的な判断は、聖書がどう教えているかである。

(2) イエス・キリストは、永遠の滅びを教えておられる。

- ①ゲヘナという言葉は、新約聖書に12回出て来る。
- ②ヤコブ3:6以外の11回は、すべてキリストが語ったものである。
- ③ゲヘナは「燃える火の池」と同じである。
- ④新約聖書の中で、永遠の滅びについて最も語っているのはキリストである。

(3) 永遠の滅びは、神の義から出て来るものである。

- ①神の義は、神の愛と同じように不変のものである。
- ②キリストを拒否する人には、神の愛は届かないのである。

(4) マタ 25:46

Mat 25:46 こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。」

(5) 2テサ 1:6~9

2Th 1:6 つまり、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、

2Th 1:7 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現れるときに起こります。

2Th 1:8 そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。

2Th 1:9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

2. 7つの祝福の約束

(1) 黙1:3

Rev 1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

①黙示録を学ぶことの祝福

(2) 黙14:13

Rev 14:13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

①大患難時代にキリストを信じるがゆえに死ぬ人は、幸いである。

(3) 黙16:15

Rev 16:15 ——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである——

①キリストの再臨に備えながら生きる人は、幸いである。

(4) 黙19:9

Rev 19:9 御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい」と言い、また、「これは神の真実のことばです」と言った。

①小羊の宴会での花嫁は、教会である。

②その宴会に招かれるその他の聖徒たちがいる。彼らは、幸いである。

(5) 黙20:6

Rev 20:6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

①聖徒として復活にあずかる者は、幸いである。

(6) 黙22:7

Rev 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

①黙示録の預言を信じ続ける者は、幸いである。

(7) 黙 22 : 14

Rev 22:14 自分の着物を洗って、いのちの木の实を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入れるようになる者は、幸いである。

- ① 信仰による救いの結果として行為が伴っている。
- ② いのちの木の实を食べる権利を与えられた者は、幸いである。

まとめ

- ① 聖書を通して真の神を知った。
- ② 「私はこう思う」ではなく、「聖書はこう言う」を優先すべき。
- ③ 神の愛と神の義は永遠である。

「鉢の裁きへの前奏曲」

黙 15 : 1~8

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10章~14章は、挿入箇所である。

②10章~14章では、大患難時代の中間に起こる数々の出来事が取り扱われた。

*これらの出来事の影響は、大患難時代の後半にも継続する。

③15章~16章では、大患難時代後半の3年半に起こる出来事が取り上げられる。

*最も激しい裁きが下る。第7のラッパの裁き。

*それが「7つの鉢の裁き」である。

*第7つ鉢の裁きに続く出来事が、キリストの再臨である(19章)。

*16章と19章は、時間的につながっている。

(2) 15章は、鉢の裁きへの前奏曲である。

*神の怒りが地に下る前に、天における状況が啓示される。

*苦難に会う聖徒たちへの励ましのメッセージである。

2. アウトライン

(1) 7つの災害を携えた7人の天使(1~2節)

(2) モーセの歌と小羊の歌(3~4節)

(3) 開かれた天の幕屋の聖所(5~6節)

(4) 7つの鉢(7~8節)

3. 結論

(1) 神の怒りからの解放

(2) 音楽と礼拝

黙示録15章の内容について学ぶ。

I. 7つの災害を携えた7人の天使(1~2節)

1. 1節

Rev 15:1 また私は、天にもう一つの巨大な驚くべきしるしを見た。七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。神の激しい怒りはここに窮まるのである。

(1) ここで、黙 11 : 19 と黙 15 : 1 がつながる。

Rev 11:19 それから、天にある、神の神殿が開かれた。神殿の中に、契約の箱が見えた。また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹が降った。

- ①これは、鉢の裁きが始まる前の天の神殿の状況描写である。
- ②黙15:1は、それを引き継いでいる。

(2) 「天にもう一つの巨大な驚くべきしるしを見た」

- ①「もう一つ」とは、すでに見た2つの「しるし」とは別のものであることを示している。
 - *ひとりの女(12:1):イスラエルの象徴
 - *赤い竜(12:3):サタンの象徴
 - *ここでは、7つの災害を携えた7人の天使が、そのしるしである。
- ②このしるしは、神の最終的な裁きが始まろうとしていることを示している。
- ③神の聖なる怒りが、神を信じない人類の上に、反キリストの上に、偽預言者の上に下ろうとしている。

(3) 最終的な裁きは、7人の天使を仲介者として行われる。

- ①封印の裁きも、ラッパの裁きも、同じようにして行われた。
- ②天使は、神の命令を実行する、しもべたちである。

(4) 「7つの災害」は、最も激しい裁きである。

- ①最後の裁きである。
- ②神の怒りがその極みに達する裁きである。
 - *「窮まる」は、ギリシア語で「テレオウ」である。
 - *ヨハネ19:30の「完了した」と同じ動詞である。
 - *神は、贖いの業も、裁きの業も、完璧に行われる。
- ③「7つの災害」が「鉢の裁き」と呼ばれるものである。
 - *大患難時代の7年の最後に起こる。
 - *短時間の内に、連続的に起こる。
 - *先に行くほど、神の怒りの度合いが強くなる。

2. 2節

Rev 15:2 私は、火の混じった、ガラスの海のようなものを見た。獣と、その像と、その名を示す数字とに打ち勝った人々が、神の立琴を手にして、このガラスの海のほとりに立っていた。

(1) 「私は、火の混じった、ガラスの海のようなものを見た」

- ①黙4:6

Rev 4:6 御座の前は、水晶に似たガラスの海のようにであった。御座の中央と御座の回りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。

②出 24 : 10

Exo 24:10 そうして、彼らはイスラエルの神を仰ぎ見た。御足の下にはサファイヤを敷いたようなものがあり、透き通っていて青空のようであった。

③黙 15 : 2 の「火の混じった」は、神の聖なる怒りを示していると思われる。

(2) そこには、大患難時代の殉教者たちが立っていた。

①彼らは、反キリストを受け入れなかった人たちである。

②黙 12 : 11

Rev 12:11 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。

(3) 「神の立琴を手にして、」

①彼らは、神の恵みによって勝利することができた。

②忠実さへの報償が、小羊の前での礼拝である。

③彼らにできる最善の応答は、礼拝である。

③礼拝のために豎琴が用いられた。

II. モーセの歌と小羊の歌 (3~4 節)

1. 3 節

Rev 15:3 彼らは、神のしもべモーセの歌と小羊の歌とを歌って言った。／「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。主よ。万物の支配者である神よ。あなたの道は正しく、真実です。もろもろの民の王よ。

(1) モーセの歌は、2つの可能性がある。

①出 15 : 1~11 に出てくる勝利の歌。

Exo 15:1 そこで、モーセとイスラエル人は、【主】に向かって、この歌を歌った。彼らは言った。／「【主】に向かって私は歌おう。／主は輝かしくも勝利を収められ、／馬と乗り手とを海の中に投げ込まれたゆえに。

* 「7つの鉢の裁き」は、モーセがエジプトにもたらした災害に似ている。

②申命 32 章で、モーセ自身がイスラエルの民の前で語っている内容。

* こちらのほうが、神の解放も御業の全体を歌っている。

(2) 天において殉教者たちがモーセの歌を歌っているのは、興味深い。

- ①モーセは、旧約時代において神の民に解放をもたらした。
- ②イエスは、大患難時代において神の民に解放をもたらす。

(3) 小羊の歌は、聖書には記録されていない。

- ①恐らく、3～4節がその歌の歌詞であろう。
- ②イエスが神であることを宣言している。
- ③反キリストとその勢力を滅ぼすことによって、ご自身の神性を証明される。

2. 4節

Rev 15:4 主よ。だれかあなたを恐れず、御名をほめたたえない者があるでしょうか。ただあなただけが、聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばきが、明らかにされたからです。」

(1) 「主よ。だれかあなたを恐れず、御名をほめたたえない者があるでしょうか」

- ①大患難時代の殉教者たちの歌が続く。
- ②これは、修辭的質問である。神の偉大さを強調する文章である。
- ③旧約時代において、イスラエルは偶像礼拝の国々に取り囲まれていた。
- ④その中で、彼らは主(ヤハウェ)だけをほめたたえた。

(2) 「ただあなただけが、聖なる方です」

- ①イエスは、聖なる方である。
- ②それゆえ、神の小羊として罪の贖いを提供することができた。
- ③へブ9:14

Heb 9:14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者とするものでしょう。

④1 ペテ1:18～19

1Pe 1:18 ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、

1Pe 1:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

(3) 「すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します」

- ①これは、千年王国において成就する。
- ②キリストの再臨に続いて、千年王国が設立される。
- ③キリストは、エルサレムでダビデの王座について世界を統治する。
- ④千年王国は、文字通りの地上における王国である。

⑤諸国民は、エルサレムに登り、キリストを礼拝する。

III. 開かれた天の幕屋の聖所（5～6節）

1. 5節

Rev 15:5 **その後、また私は見た。天にある、あかしの幕屋の聖所が開いた。**

(1) 「その後、また私は見た」

①ここから、新しいテーマが始まる。

(2) 「天にある、あかしの幕屋の聖所が開いた」

①「あかしの幕屋」とは、天にある神殿のことである。

②地上の神殿は、天にある神殿のコピーである。

③天にある神殿の至聖所が開いた。

* 聖所と至聖所を隔てている幕が裂かれた。

2. 6節

Rev 15:6 **そしてその聖所から、七つの災害を携えた七人の御使いが出て来た。彼らは、きよい光り輝く亜麻布を着て、胸には金の帯を締めていた。**

(1) 聖所が開いたので、そこから7人の天使たちが出て来た。

①そこは、大祭司だけが入ることを赦されていた。

②天使たちは聖であるので、そこに入ることができた。

③彼らは、7つの災害を携えていた。

④すぐにでも、鉢の裁きが始まろうとしている。

(2) 「彼らは、きよい光り輝く亜麻布を着て、胸には金の帯を締めていた」

①「光り輝く亜麻布」は、天使たちが聖であり義であることを示している。

* 「聖である」とは、神のために選び分かたれていることを指す。

* 彼らは、神の裁きを行うために選び分かたれた者たちである。

②「金の帯」は、天使たちの威光を指すと考えられる。

IV. 7つの鉢（7～8節）

1. 7節

Rev 15:7 **また、四つの生き物の一つが、永遠に生きておられる神の御怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御使いに渡した。**

(1) 4つの生き物は、黙4:6に登場した天使たちである。

Rev 4:6 御座の前は、水晶に似たガラスの海のようにであった。御座の中央と御座の回りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。

(2) 天使のひとりが、7つの金の鉢を7人の天使たちに渡した。

①7人の天使たちは、その鉢を地にぶちまける。

2. 8節

Rev 15:8 聖所は神の栄光と神の大能から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその聖所に、入ることができなかった。

(1) この煙は、シャカイナグローリーである。

①出40:34~35

Exo 40:34 そのとき、雲は会見の天幕をおおい、【主】の栄光が幕屋に満ちた。

Exo 40:35 モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、【主】の栄光が幕屋に満ちていたからである。

(2) 鉢の裁きが終わるまでは、誰も聖所に入ることができなかった。

①鉢の裁きが最後で、最も厳しい裁きであることを示している。

結論：

1. 神の怒りからの解放

(1) 神の怒りは、神の義に基づく、罪に対する怒りである。

(2) 私たちクリスチャンは、その怒りから解放されている。

①それが、携挙の希望である。

(3) 1テサ1:10

1Th 1:10 また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちに救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。

①「やがて来る御怒り」とは、大患難時代に下る裁きのことである。

(4) 1テサ5:9

1Th 5:9 神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。

①「御怒り」とは、大患難時代に下る裁きのことである。

2. 音楽と礼拝

(1) 黙示 15 : 2~3 では、殉教者たちが小羊をたたえている。

①小羊を礼拝することは、信仰者に与えられる特権であり、褒賞である。

②礼拝は、贖われた者たちの当然の応答である。

(2) 彼らは、楽器をもって小羊をたたえている。

①詩 4 篇

Psa 4:0 指揮者のために。弦楽器に合わせて。ダビデの賛歌

②詩 5 篇

Psa 5:0 指揮者のために。フルートに合わせて。ダビデの賛歌

③詩 43 : 4

Psa 43:4 こうして、私は神の祭壇、私の最も喜びとする／神のみもとに行き、／立琴に合わせて、あなたをほめたたえましょう。／神よ。私の神よ。

④詩 150 : 3~5

Psa 150:3 角笛を吹き鳴らして、／神をほめたたえよ。／十弦の琴と立琴をかなでて、／神をほめたたえよ。

Psa 150:4 タンバリンと踊りをもって、／神をほめたたえよ。／緒琴と笛とで、／神をほめたたえよ。

Psa 150:5 音の高いシンバルで、／神をほめたたえよ。／鳴り響くシンバルで、／神をほめたたえよ。

(3) あらゆる楽器は、神を賛美するために用いてもよい。

(4) 神をたたえるのにふさわしくない賛美などない。

(5) 伝統的な賛美と現代的な賛美の長所と欠点

①伝統的な賛美は、歌詞もメロディーもすばらしい。

②時間のテストをくぐり抜けてきた。

③しかし、感情移入が難しい。

④現代的な賛美は、若者を引きつける。

⑤しかし、深みのないものが多い。

⑥時間のテストを受ける必要がある。

(6) コロサイ 3 : 16

Col 3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。

「鉢の裁き（1）」

黙 16：1～11

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①15章～16章では、大患難時代後半の3年半に起こる出来事が取り上げられる。

②15章は、鉢の裁きへの前奏曲である。

*聖徒たちへの励ましのメッセージである。

③16章は、第7のラッパの裁きである。

*それが「7つの鉢の裁き」で、最も激しい裁きである。

*第7つ鉢の裁きに続く出来事が、キリストの再臨である（19章）。

(2) 鉢の裁きを2つのグループに分けて学ぶ。

①第1～第5の鉢の裁き

②第6～第7の鉢の裁き

*この2つは、ハルマゲドンの戦いに関係している。

2. アウトライン

(1) 第1の鉢の裁き（1～2節）

(2) 第2の鉢の裁き（3節）

(3) 第3の鉢の裁き（4～7節）

(4) 第4の鉢の裁き（8～9節）

(5) 第5の鉢の裁き（10～11節）

3. 結論

(1) 神の義

(2) 頑なな心

7つの鉢の裁きの前半について学ぶ。

I. 第1の鉢の裁き（1～2節）

1. 1節

Rev 16:1 また、私は、大きな声が聖所から出て、七人の御使いに言うのを聞いた。「行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に向けてぶちまけよ。」

(1) 大患難時代における裁きの進展

①7つの封印の裁き（6章）

②第7の封印の裁きが7つのラッパの裁き(8:6~9:21)。

③第7のラッパの裁きが7つの鉢の裁き(16章)。

(2) 「大きな声が聖所から出て」

①これは、神ご自身の声である。

②黙15:8

Rev 15:8 聖所は神の栄光と神の大能から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその聖所に、入ることができなかった。

③「大きな声」は、その内容が重要で緊急性のある宣言であることを示している。

(3) 神は、7人の天使たちに裁きの実行を命じた。

①7つの鉢の裁きは、短時間の内に連続して起こる。

②先に行くほど裁きの厳しさが増す。

2. 2節

Rev 16:2 そこで、第一の御使いが出て行き、鉢を地に向けてぶちまけた。すると、獣の刻印を受けている人々と、獣の像を拝む人々に、ひどい悪性のはれものができた。

(1) 反キリストに従う人たちへの裁き

①この時点では、地上の人たちの大半が、反キリストに従っている。

②彼らに、悪性のはれものができた。

③黙14:9~11が成就し始めている(獣を拝む者たちへの警告)。

Rev 14:9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、

Rev 14:10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。

Rev 14:11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。

(2) 第1のラッパの裁きとの対比(黙8:7)

①第1のラッパの裁きでは、木の三分の一が焼け、青草が全部焼けてしまった。

②第1の鉢の裁きでは、反キリストを拝む者たちが悪性の皮膚病で打たれた。

(3) エジプトに下った第6の裁きとの対比(出9:9~11)

①エジプト人は「うみが出る腫物」で打たれた。

②黙16:2の「はれもの」は、ギリシア語で「ヘルコス」である。

③出9:9の「腫物」も、「ヘルコス」(七十人訳聖書)である。

II. 第2の鉢の裁き(3節)

1. 3節

Rev 16:3 第二の御使いが鉢を海にぶちまけた。すると、海は死者の血のような血になった。海の中のいのちのあるものは、みな死んだ。

- (1) 海の水は血に変わった。
 - ①海の中の生物は死滅した。
 - ②耐えられないほどの異臭が立ち上ることであろう。

- (2) 第2のラッパの裁きとの対比(黙8:8~9)
 - ①海の3分の1が血になった。
 - ②海の中の生物の3分の1が死んだ。

- (3) エジプトに下った第1の裁きとの対比(出7:17~21)
 - ①ナイルの水が血に変わった。

III. 第3の鉢の裁き(4~7節)

1. 4節

Rev 16:4 第三の御使いが鉢を川と水の源とにぶちまけた。すると、それらは血になった。

- (1) 今度は、川と泉の水が血になった。
 - ①飲料水がなくなったので、生存が脅かされる。

- (2) 第2と第3の裁きで、地上の水はすべて血に変わった。
 - ①人類の生存は不可能な環境になった。
 - ②キリストの再臨が近いということである。

2. 5~6節

Rev 16:5 また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「今いまし、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。なぜならあなたは、このようなさばきをなさったからです。Rev 16:6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは、その血を彼らに飲ませました。彼らは、そうされるにふさわしい者たちです。」

- (1) 「水をつかさどる御使い」
 - ①天使には、自然界のある部分の管理が委ねられている。
 - ②黙7:1

Rev 7:1 この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押さえ、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。

③黙 14 : 18

Rev 14:18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」

(2) この天使が、神の義が成ったと神をほめたたえている。

①聖徒たちの血を流した者たちが、血を飲むようになるのは当然である。

②大患難時代の裁きは、神の義の成就でもある。

3. 7 節

Rev 16:7 また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主よ。万物の支配者である神よ。あなたのさばきは真実な、正しいさばきです。」

(1) 「祭壇がこう言うのを聞いた」とは、祭壇の擬人化である。

①水をつかさどる天使に同意しているのは、大患難時代の殉教者たちである。

②黙 6 : 9~10

Rev 6:9 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。

Rev 6:10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさないのですか。」

IV. 第4の鉢の裁き（8~9 節）

1. 8 節

Rev 16:8 第四の御使いが鉢を太陽に向けてぶちまけた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。

(1) 太陽の熱が上昇した。

①飲み水がない上に、太陽が激しく照りつけた。

②人々は、耐え難いほどの苦しみを経験する。

③「人々」は「the people」である。これは、2 節、6 節と同じ人たちである。

④キリストを信じる者たちは、この裁きを免れる。

(2) 第4のラッパの裁きとの対比（黙 8 : 12）

Rev 8:12 第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜

も同様であった。

①生存に適した地球環境が、激変した。

2. 9節

Rev 16:9 こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。しかも、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。

(1) 人々の反応

①これほどの苦難も、人々を悔い改めには導かなかった。

②人々は、神の御名を汚すようなことを言った。

V. 第5の鉢の裁き(10～11節)

1. 10節

Rev 16:10 第五の御使いが鉢を獣の座にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。

(1) 暗黒が襲った。

①「獣の国」とは反キリストが支配する世界である。

②この暗黒には痛みが伴っていた。

③「人々」とは、反キリストに従う人々である。

(2) エジプトに下った第9の災害との対比(出10:21～23)

Exo 10:21 【主】はモーセに仰せられた。「あなたの手を天に向けて差し伸べ、やみがエジプトの地の上に来て、やみにさわれるほどにせよ。」

Exo 10:22 モーセが天に向けて手を差し伸ばしたとき、エジプト全土は三日間真っ暗やみとなった。

Exo 10:23 三日間、だれも互いに見ることも、自分の場所から立つこともできなかった。しかしイスラエル人の住む所には光があった。

①イスラエル人の住む所(ゴシェンの地)は例外であった。

②ダニ11:41によれば、反キリストの支配を免れる場所を3つ上げている。

*エドム、モアブ、アモン。ユダヤ人たちが逃れて行く場所である。

*ここには光がある。

2. 11節

Rev 16:11 そして、その苦しみと、はれものとのゆえに、天の神に対してけがしごとを言い、自分の行いを悔い改めようとしなかった。

(1) これほどの苦難に会いながらも、罪人たちは悔い改めようとはしなかった。

結論：

(ILL) 弁護士法

(1) 第一章 弁護士の使命及び職務

(2) 第一条 弁護士は、基本的人権を擁護し、社会正義を実現することを使命とする。

1. 神の義

(1) 正義は、神の御座の土台である。

Psa 89:14 義と公正は、あなたの王座の基。／恵みとまことは、御前に先立ちます。

(2) 神は常に公義を行われる。

Gen 18:25 正しい者を悪い者といっしょに殺し、そのため、正しい者と悪い者が同じようになるというようなことを、あなたがなさるはずがありません。とてもありえないことです。全世界をさばくお方は、公義を行うべきではありませんか。」

(3) 神は常に義をもって裁かれる。

Psa 98:9 確かに、主は地をさばくために来られる。／主は義をもって世界をさばき、／公正をもって国々の民を、さばかれる。

(4) 神の業は常に完全である。

Deu 32:4 主は岩。主のみわざは完全。／まことに、主の道はみな正しい。／主は真実の神で、偽りがなく、／正しい方、直ぐな方である。

(5) 鉢の裁きは、神の義の表現である。

2. 頑なな心

(1) 神の裁きを受けても、罪人は悔い改めようとはしない。

①出エジプト記のパロは、心を頑なにした。

(2) 信者でも心を頑なにすることがある。

Psa 95:7 主は、私たちの神。／私たちは、その牧場の民、その御手の羊である。／きょう、もし御声を聞くなら、

Psa 95:8 メリバでのときのように、／荒野のマサでの日のように、／あなたがたの心をかたくなにしてはならない。

(3) 聖霊の語りかけを無視してはならない。

Heb 3:7 ですから、聖霊が言われるとおりに。／「きょう、もし御声を聞くならば、

Heb 3:8 荒野での試みの日に／御怒りを引き起こしたときのように、／心をかたくなにしてはならない。

(4) 苦難から解放される道は、悔い改めである。

Jer 18:7 わたしが、一つの国、一つの王国について、引き抜き、引き倒し、滅ぼすと語った
その時、

Jer 18:8 もし、わたしがわざわいを予告したその民が、悔い改めるなら、わたしは、下そう
とっていたわざわいを思い直す。

「鉢の裁き（2）」

黙 16：12～21

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①15章～16章では、大患難時代後半の3年半に起こる出来事が取り上げられる。

②15章は、鉢の裁きへの前奏曲である。

* 聖徒たちへの励ましのメッセージである。

③16章は、第7のラッパの裁きである。

* 「第7のラッパの裁き」＝「7つの鉢の裁き」で、最も激しい裁きである。

* 第7つ鉢の裁きに続く出来事が、キリストの再臨である（19章）。

(2) 鉢の裁きを2つのグループに分けて学んでいる。

①第1～第5の鉢の裁き

②第6～第7の鉢の裁き

* この2つは、ハルマゲドンの戦いに関係している。

* ハルマゲドンの戦いには8つの段階がある（フルクテンバウム説）。

* 第6の鉢の裁きは、ハルマゲドンの戦いの第1の段階。

* 第7の鉢の裁きは、ハルマゲドンの戦いの第8の段階。

2. アウトライン

(1) 第6の鉢の裁き（12～16節）

(2) 第7の鉢の裁き（17～21節）

3. 結論

(1) ハルマゲドンの戦いの8段階

(2) 黙示16章17節とヨハネ19章30節

7つの鉢の裁きの後半について学ぶ。

I. 第6の鉢の裁き（12～16節）

1. 12節

Rev 16:12 第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。

(1) 第6の御使いが、鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。

①すると、川の水が涸れた。

(2) ユーフラテス川

- ①ユーフラテス川の源流は、トルコ北東部の山地である。
- ②途中シリアを通過し、イラクでチグリス川と合流してペルシア湾に注ぐ。
- ③全長約 3000 km弱の国際河川である。
- ④古代都市ウルやバビロンは、この川のほとりにあった。
- ⑤古代ローマ帝国の東の境界線になっていた。

(3) 聖書預言では、約束の地の東の境界線である。

①創 15 : 18

Gen 15:18 その日、【主】はアブラムと契約を結んで仰せられた。／「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。／エジプトの川から、／あの大河、ユーフラテス川まで。

②申 1 : 7

Deu 1:7 向きを変えて、出発せよ。そしてエモリ人の山地に行き、その近隣のすべての地、アラバ、山地、低地、ネゲブ、海辺、カナン人の地、レバノン、さらにあの大河ユーフラテス川にまで行け。

③ヨシ 1 : 4

Jos 1:4 あなたがたの領土は、この荒野とあのレバノンから、大河ユーフラテス、ヘテ人の全土および日の入るほうの大海に至るまでである。

(4) 反キリストの軍勢が侵攻してくるのが可能になった。

- ①ユダヤ人を抹殺するための戦いが始まろうとしている。
- ②彼らは、キリストの再臨を妨害するためにユダヤ人を滅ぼそうとしている。

(5) 「日の出るほうから来る王たち」とは、誰か。

- ①ある学者は、100 以上の注解書を調べ、50 以上の説があるのを発見したという。
- ②字義通りに読めば、「東の方から来る王たち」である。
- ③聖書が「東」という場合は、極東（中国）ではなくメソポタミアを指す。
- ④反キリストの国の首都は、バビロンである。
- ⑤東の国々の王たちが、川が枯渇するという奇跡に助けられて進軍してくる。

2. 13～14 節

Rev 16:13 また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。

Rev 16:14 彼らはしるしを行う悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て

行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。

- (1) イスラエルに対する戦いを計画しているのは、偽の三位一体である。
 - ① 竜（サタン）、② 獣（反キリスト）、③ 偽預言者

- (2) 彼らの口から、3つの悪霊が出て来た。
 - ① 汚れた霊である。「かえるのような」
 - * かえるは、儀式的に汚れている。
 - * レビ 11：9～12、41 参照（水の中において、ひれやうろこのないもの）
 - ② 3つの悪霊は、偽の三位一体の命令を実行する。

- (3) 3つの悪霊の活動
 - ① しるしを行う。
 - * これは、Bクラスの奇跡である。
 - * 全世界の王たちが苦しんでいる（水不足、猛暑、皮膚病）。
 - * その王たちを助けるためには、しるしが必要である。
 - ② 「大いなる日の戦い」のために、全世界の王たちを招集する。
 - * この戦いは、ハルマゲドンの戦いである。
 - * 王たちは、イスラエルのどこかの地に招集される。

3. 15 節

Rev 16:15 ——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである——

- (1) これは挿入句である。
 - ① 主イエスへの信仰を捨てない人たちへの励ましのことばである。
 - ② 語っているのは、神ご自身である。

- (2) 「わたしは盗人のように来る」
 - ① 予期せぬ時に、突然来る。
 - ② 人々は、まだ準備ができていない。
 - ③ それゆえ、霊的な目を覚まし続ける必要がある。

- (3) 「身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである」
 - ① 起源 1 世紀の読者には、この言葉の意味がよく理解できた。
 - ② 番兵は、任務中に寝ているのが見つかり、罰を受けた。
 - * 着物を脱がされた。

*見せしめのために、裸で歩かされた。

③霊的に目を覚まし続ける者は、祝福を受けるという約束である。

4. 16 節

Rev 16:16 こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。

(1) 反キリストの軍勢が集結する場所は、ハルマゲドンである。

①「メギドの山」という意味である。

②イズレエル平原の西の端にある山

*イスラエルで一番面積が広いのが、イズレエル平原である。

③ここは戦いの場ではなく、反キリストの軍勢が集結する場所である。

II. 第7の鉢の裁き（17～21 節）

1. 17 節

Rev 16:17 第七の御使いが鉢を空中にぶちまけた。すると、大きな声が御座を出て、聖所の中から出て来て、「事は成就した」と言った。

(1) 大きな声

①神の声である。

②聖所の中から出て来た。

(2) 「事は成就した」

①ギリシア語で一語である。「ゲゴネン」（ギノマイ）

②これは、最後の裁きを紹介する言葉で、完了形である。

*神の怒りの裁きは、すべて行われた。

*神の怒りは、すべて取り去られた。

③キリストの再臨の前に起こることは、すべて完了した。

2. 18～19 節

Rev 16:18 すると、いなずまと声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほどに大きな、強い地震であった。

Rev 16:19 また、あの大きな都は三つに裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。そして、大バビロンは、神の前に覚えられて、神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。

(1) 歴史上なかったほど大きな地震が起こる。

①黙6:12（第6の封印）

②黙8:5（第7の封印）

③黙 11 : 13（二人の証人の召天）

④黙 11 : 19（第7のラッパ）

(2) エルサレムは、3つに裂かれる。

①ゼカ 14 : 4

Zec 14:4 その日、主は御足をもって／エルサレムの東にある／オリーブ山の上に立たれる。オリーブ山は東と西に半分に裂け／非常に大きな谷ができる。山の半分は北に退き、半分は南に退く。

②エルサレムは、千年王国のために再建される必要がある。

4. 20～21 節

Rev 16:20 島はすべて逃げ去り、山々は見えなくなった。

Rev 16:21 また、一タラントほどの大きな雹が、人々の上に天から降って来た。人々は、この雹の災害のため、神にけがしごとを言った。その災害が非常に激しかったからである。

(1) 世界中の地形が激変する。

①これもまた、千年王国設立の準備である。

(2) 大きな雹が降って来た。

①一タラント（約 45 kg）の重さの雹

②神の怒りはここに極まる。

(3) それでも人々は、神をののしる言葉を口にした。

①裁きが激しくなっても、人々の心は頑ななままであった。

結論：

1. ハルマゲドンの戦いの8段階

(1) 反キリストの軍勢の集結（第6の鉢の裁き）

(2) バビロンの都の崩壊

①イザ 13 章、14 章

②エレ 50 章、51 章

③ゼカ 5 : 4～11

④黙 18 章

(3) エルサレムへの攻撃とその崩壊

①反キリストの軍勢によるエルサレムへの攻撃

②ユダヤ人たちは、エルサレムを脱出し、ボズラに移住している。

③ゼカ 12 : 1~9、ゼカ 14 : 1~2

(4) 反キリストの軍勢のボズラ侵攻

①エレ 49 : 13~14

(5) イスラエルの民族的救い

①イザ 66 : 8

②ゼカ 3 : 8~10

③ロマ 11 : 15~27

(6) キリストの地上再臨

①イザ 34 : 1~7、63 : 1~6

③ミカ 2 : 12~13

④ハバ 3 : 3

(7) 反キリストの軍勢のヨシャパテの谷での滅亡

①ヨエ 3 : 12~13

②黙 14 : 20

(8) オリーブ山に立つ栄光の王(第7の鉢の裁き)

①ゼカ 14 : 4~5

2. 黙示 16 章 17 節とヨハネ 19 章 30 節

(1) 黙示 16 章 17 節

Rev 16:17 第七の御使いが鉢を空中にぶちまけた。すると、大きな声が御座を出て、聖所の中から出て来て、「事は成就した」と言った。

①「事は成就した」は、「ゲゴネン」である。

②罪に満ちた世界に対する神の怒りは、ついに収まった。

③次に起こるのは、キリストの再臨と千年王国の設立である。

(2) ヨハネ 19 章 30 節

Joh 19:30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。

①「完了した」は、「テテレスタイ」である。

②完済したという意味である。

③イエスの勝利の宣言である。

④イエスは、ご自身の死が罪のための贖いの死であることを知っておられた。

⑤ロマ 5 : 1

Rom 5:1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

「宗教的バビロンの崩壊」

黙 17:1~18

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①15章~16章では、大患難時代後半の3年半に起こる出来事が取り上げられた。

*16章は、第7のラッパの裁きである。

*「第7のラッパの裁き」=「7つの鉢の裁き」で、最も激しい裁きである。

②7つ鉢の裁きに続く出来事が、キリストの再臨である(19章)。

(2) 17章と18章の内容

①ヨハネは、見た順番に幻を記しているが、幻自体は、時間順には並んでいない。

②17章と18章は、「再記述の法則」で解釈する必要がある。

*17章は、大患難時代の前半に起こることの再記述である。

*18章は、大患難時代の後半に起こることの再記述である。

(3) 黙17章と18章に出てくる「バビロン」の意味

①文字通り、ユーフラテス川沿いにあるバビロンの町

②神に敵対する宗教的・経済的システム

③今日の「ウォールストリート」という言葉も、2つの意味を持っている。

2. アウトライン

(1) 大バビロンの描写(1~6節)

(2) 大バビロンの解説(7~14節)

(3) 大バビロンの滅亡(15~18節)

3. 結論

(1) 神の主権

(2) 忠実な者たち

大淫婦の滅亡について学ぶ。

I. 大バビロンの描写(1~6節)

1. 1~2節

Rev 17:1 また、七つの鉢を持つ七人の御使いのひとりが来て、私に話して、こう言った。「ここに来なさい。大水の上にすわっている大淫婦へのさばきを見せましょう。」

Rev 17:2 地の王たちは、この女と不品行を行い、地に住む人々も、この女の不品行のぶどう酒に酔ったのです。」

(1) 大淫婦と不品行

①旧約聖書では、「淫婦」は「偽の宗教」を象徴する言葉である。

②「淫行」は、偶像礼拝を象徴する言葉である。霊的姦淫である。

*通常は、真の神を信じると告白しながら、偶像を拝む行為を指す。

③エレ2:20

Jer 2:20 実に、あなたは昔から自分のくびきを砕き、／自分のなわめを断ち切って、／『私は逃げ出さない』と言いながら、／すべての高い丘の上や、／すべての青々とした木の下で、／寝そべって淫行を行っている。

④その他の聖句

*エレ3:6~9

*エゼ20:30

(2) この大淫婦は、背教の教会を指す。

①組織化された背教の教会が、反キリストの思いを実行するようになる。

②携挙の時に地上に残された人たちが、その支配下に入る。

③「大水の上に座っている」

*あらゆる民族、国々が、その支配下に置かれることを意味している。

*王たち(政治権力)が、大淫婦を支援している。

④「この女と不品行を行い」

*性的な罪はなく、偶像礼拝のことである。

⑤「ぶどう酒に酔った」

*ぶどう酒には、飲む人を支配する力がある。

*それと同じように、偽の宗教にも人を酔わせる力がある。

*偽の宗教に酔ったことのある人を霊的に導くのは、至難の業である。

(3) 大淫婦の登場は、大患難時代の前半に起こる。

①その大淫婦は、神の裁きを受けようとしている。

2. 3~4節

Rev 17:3 それから、御使いは、御霊に感じた私を荒野に連れて行った。すると私は、ひとりの女が緋色の獣に乗っているのを見た。その獣は神をけがす名で満ちており、七つの頭と十本の角を持っていた。

Rev 17:4 この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものや自

分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手を持っていた。

(1) ヨハネは、よく見える場所から「ひとりの女」を見た。

①女は、緋色の獣に乗っていた。

(2) この獣は、黙13:1に出て来たものと同じである(反キリスト)。

①ダニ7章の第4の獣(帝国主義)と同じである。

*いかなる獣にもたとえられない異様な姿をしていた。

*大きな鉄のきばと10本の角を持っていた(10本の角は10人の王)。

*11本目の小さな角が出てきて、初めの角のうち3本が引き抜かれた。

*この小さな角は人格を持ち、豪語する口を持っていた(反キリスト)。

②黙17:3は、時間的には黙13:1よりも前である。

*獣はまだ政治的権威を掌握していない。

*今は、女が反キリストを支配している段階にある。

(3) 獣の描写

①「緋色」は、反キリストの華麗さを示している。

②「神を汚す名で満ちていた」は、神に敵対する性質を示している。

③「七つの頭と十本の角」は、後にその意味が解き明かされる。

(4) 女の描写

①背教の教会は、多くの富を有し、外面的には非常に魅力的である。

②古代世界では、淫婦(娼婦)は、豪華な衣装を身にまとっていた。

*江戸・吉原における上級遊女(花魁)も、豪華に着飾っていた。

③今日でも、ある教派では、高位の聖職者が豪華絢爛な衣装をまとっている。

(5) 金の杯は、儀礼的宗教の象徴である。

①金の杯は、外面的には魅力的である。

②しかし、その杯は汚れに満ちている。

③エレ51:7

Jer 51:7 バビロンは主の手にある金の杯／これが全世界を酔わせた。国々はその酒を飲み／そのゆえに、国々は狂った。

3. 5節

Rev 17:5 その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン」という名であった。

(1) 「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン」

- ①古代ローマ世界では、娼婦は自分の名を書いた布で額を覆っていた。
- ②大淫婦も、自分の名を額に記していた。

(2) 偽の宗教は、バビロンから始まり、バビロンで終わる。

- ①ニムロデは、バベルを建設した人物である(創10:8~12)。
- ②バベルの塔の出来事(創11:1~9)
- ③バベルは後にバビロンと呼ばれるようになった。
- ④大患難時代の前半、統一化された教会の中心がバビロンに置かれる。

4. 6節

Rev 17:6 **そして、私はこの女が、聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの女を見たとき、非常に驚いた。**

(1) 大淫婦は、偽のキリストの花嫁である。

- ①偽の教会は、大患難時代の前半に、多くの聖徒たちの命を奪う。
- ②第5の封印の裁きでは、多くの殉教者が出ている。

(2) 大患難時代の後半になると、組織化された背教の教会は別のものに置き換わる。

- ①反キリストを礼拝することを要求する、偽の宗教が出現する。

II. 大バビロンの描写の解説(7~14節)

1. 7節

Rev 17:7 **すると、御使いは私にこう言った。「なぜ驚くのですか。私は、あなたに、この女の秘義と、この女を乗せた、七つの頭と十本の角とを持つ獣の秘義とを話してあげましょう。」**

(1) ヨハネが幻の意味を理解できなかったので、天使が解説を始める。

①獣の解説(7~14節)

*大淫婦を支援している政治権力の本質が明らかになる。

②女の解説(15~18節)

*大バビロンの崩壊の預言が与えられる。

2. 8節

Rev 17:8 **あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。そして彼は、ついには滅びます。地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現れるのを見て**

驚きます。

(1)「昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます」

- ①これは、反キリストの描写である。
- ②反キリストは、殺されるまでは生きていた。
- ③今や、底知れぬ所から上がって来ようとしている。

*黙 13 : 3~4、12~14

(2)「そして彼は、ついには滅びます」

- ①黙 19 : 20

Rev 19:20 すると、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを惑わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕らえられた。そして、このふたりは、硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。

(3)「世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者」

- ①この書は、「小羊のいのちの書」である。
- ②黙 13 : 8

Rev 13:8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名を書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。

- ③名を記されていない者たちは、不信者たちである。
- ④彼らは、反キリストの復活を見て驚く。

3. 9~10 節

Rev 17:9 ここに知恵の心があります。七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、七人の王たちのことです。

Rev 17:10 五人はすでに倒れたが、一人は今おり、ほかの一人は、まだ来ていません。しかし彼が来れば、しばらくの間とどまるはずで。

(1)「ここに知恵の心があります」

- ①「知恵のある考えが必要である」(新共同訳)という意味である。
- ②獣の正体は複雑なので、それを理解するためには知恵が必要である。

(2) 獣の正体

- ①「7つの山」は、ローマのことではない。
- ②7つの頭=7つの山=7人の王たち
- ③5人はすでに倒れたが、一人は今おり、ほかの一人はまだ来ていない。

*ヨハネが黙示録を書いている時点での状況である。

④7つの頭(7人の王たち)とは誰か。

*エジプト、アッシリヤ、バビロン、メド・ペルシヤ、ギリシア

*ローマ

*反キリスト

⑤フルクテンバウム説

*第4の獣(帝国主義)を7段階に区分する。

*第7段階が、反キリストの段階である。

(3)「しかし彼が来れば、しばらくの間とどまるはずです」(新改訳)

①「この王が現れても、位にとどまるのはごく短い期間だけである」(新共同訳)

②黙13:5では、3年半である。

Rev 13:5 この獣にはまた、大言と冒瀆の言葉を吐く口が与えられ、四十二か月の間、活動する権威が与えられた。

4. 11～13節

Rev 17:11 また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもありますが、先の七人のうちのひとりです。そして彼はついには滅びます。

Rev 17:12 あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、一時だけ王の権威を受けます。

Rev 17:13 この者どもは心を一つにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。

(1) 反キリストは、7番目の頭(王)である。

①と同時に、8番目の角である。

②彼は、10人の王たちの中の3人を滅ぼすので、8番目の角となる。

(2) 10本の角=10人の王たち

①まだ力を持っていない。

②やがて、反キリストによって王としての権威を受け、同じ時期に統治する。

③彼らの支配は、短期間で終わる。

④彼らは、心を一つにして、反キリストに仕える。

5. 14節

Rev 17:14 この者どもは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。また彼とともにいる者たちは、召された者、選ばれた者、忠実な者だからです。」

(1) 彼らは、小羊に打ち負かされる。

- ①ハルマゲドンの戦い
- ②小羊は、主の主、王の王である。
- ③小羊とともにいる者たちは、選ばれた者、忠実な者である。

Ⅲ. 大バビロンの滅亡 (15～18 節)

1. 15 節

Rev 17:15 御使いはまた私に言った。「あなたが見た水、すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国民、国語です。」

- (1) 偽の宗教は、全世界を支配するようになる。
 - ①「水」は、世界の総人口を示す言葉である。
 - ②真の宗教は人々に仕えるが、偽の宗教は人々を支配する。

2. 16～17 節

Rev 17:16 あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようになります。

Rev 17:17 それは、神が、みことばの成就するときまで、神のみこころを行う思いを彼らの心に起こさせ、彼らが心をつにして、その支配権を獣に与えるようにされたからです。

- (1) 反キリストが大淫婦に取って代わる。
 - ①大患難時代の前半、反キリストは大淫婦を利用しての世界統一化に成功する。
 - ②もはや、大淫婦の助けは不要となった。
 - ③そこで、反キリストは、10人の王たちの力を借りて、大淫婦を滅ぼす。

- (2) 大患難時代の中で、反キリストは自分を礼拝するよう人々に迫る。
 - ①ダニ 9 : 27、11 : 26～38
 - ②マタ 24 : 15
 - ③2テサ 2 : 4
 - ④黙 13 : 8、15
 - ⑤このことは、すでに学んだ。それゆえ、この箇所を再記述と呼ぶのである。

- (3) 反キリストが支配権を持つのは、神の計画によることである。
 - ①反キリストの支配は、短命で終わる。

3. 18 節

Rev 17:18 あなたが見たあの女は、地上の王たちを支配する大きな都のことです。」

- (1) バビロンは、実際の都である。
 - ①と同時に、偽の宗教システムである。
 - ②女は、偽の宗教システムの擬人化である。

結論：

1. 神の主権

- (1) キリスト教は、世界観であり、歴史観である。
- (2) 人類の歴史は、神の永遠の目的が成就する過程である。
- (3) 2テモ1:9

2Ti 1:9 神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、

2Ti 1:10 それが今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされたのです。キリストは死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らかに示されました。

- (4) 神は、悪に対して主権を持っておられる。
- (5) 神は、悪霊たちが世界の王たちをハルマゲドンに招集することを許された。
 - ①黙16:13~16
- (6) 10人の王たちの行動の背後に、神の主権が働いている。
 - ①黙17:17

Rev 17:17 それは、神が、みことばの成就するときまで、神のみこころを行う思いを彼らの心に起こさせ、彼らが心をつにして、その支配権を獣に与えるようにされたからです。

- (7) 神の主権の最終的な現れが、黙示録21章と22章である。

2. 忠実な者たち

- (1) 黙17:14

Rev 17:14 この者どもは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。また彼とともにいる者たちは、召された者、選ばれた者、忠実な者だからです。」

- (2) 信者は、地の基が据えられる前から、召された者、選ばれた者、忠実な者である。
- (3) 聖書預言は信頼できる。
 - ①メシアの初臨によって、100以上の旧約聖書の預言が成就した。
 - ②終末に関する預言も、すべて成就すると信じることができる。
- (4) クリスマンの間に広がる不可知主義をどう受け止めるか。
- (5) 終末時代への備えは、聖書預言を信じることによって可能となる。

「経済的・政治的バビロンの崩壊(1)」

黙18:1~8

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①15章~16章では、大患難時代後半の3年半に起こる出来事が取り上げられた。

②7つ鉢の裁きに続く出来事が、キリストの再臨である(19章)。

③16章と19章の間に17章と18章がある。

*17章は、大患難時代の前半に起こることの再記述である。

*18章は、大患難時代の後半に起こることの再記述である。

(2) 黙17章と18章に出てくる「バビロン」の意味

①文字通り、ユーフラテス川沿いにあるバビロンの町

②神に敵対する宗教的・経済的システム

③17章の大バビロンは、背教の世界統一教会。

④18章の大バビロンは、経済的・政治的バビロン。

⑤大患難時代の中で、経済的・政治的大バビロンが宗教的大バビロンを滅ぼす。

*黙17:16

⑥バビロンは、反キリストの経済的・政治的都となる。

⑦反キリストはイスラエルを攻撃するために軍勢をハルマゲドンに集結させる。

*第6の鉢の裁き(ハルマゲドンの戦いの第1段階)

⑧しかし神は、バビロンの都を滅ぼされる。

*ハルマゲドンの戦いの第2段階

2. アウトライン

(1) 大バビロン崩壊の宣言(1~3節)

(2) 大バビロンからの脱出(4~5節)

(3) 大バビロンの罪の糾弾(6~8節)

3. 結論

(1) 大バビロンとラオデキヤ教会の対比

(2) 大バビロンと愚かな金持ちの対比

(3) 大バビロン脱出とこの世からの分離の対比

大バビロンの滅亡について学ぶ。

I. 大バビロン崩壊の宣言（1～3節）

1. 1節

Rev 18:1 この後、私は、もうひとりの御使いが、大きな権威を帯びて、天から下って来るのを見た。地はその栄光のために明るくなった。

(1) 「この後」

①18章の啓示は、17章の啓示の後に来るものである。

(2) 「もうひとりの天使」

①17章の天使とは別の天使である。

②大きな権威を帯びて、天から下って来た。

③地はその栄光のために明るくなった。

④神の代理人として、大きな任務（大バビロン崩壊の宣言）が与えられている。

(3) 天使と栄光の関係

①天使が持つ栄光ではなく、神の臨在の場から下って来たことによる栄光である。

②モーセが似たような体験をしている（出34:29）。

Exo 34:29 それから、モーセはシナイ山から降りて来た。モーセが山を降りて来たとき、その手に二枚のあかしの石の板を持っていた。彼は、主と話したので自分の顔のはだが光を放ったのを知らなかった。

2. 2節

Rev 18:2 彼は力強い声で叫んで言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、悪霊の住まい、あらゆる汚れた霊どもの巣くつ、あらゆる汚れた、憎むべき鳥どもの巣くつとなった。

(1) 「倒れた」が2度繰り返されている。

①神の裁きは確実に下る。

②バビロンの崩壊は、徹底したものである。

③将来のことが、すでに成就している事実として語られている。

(2) 裁きを受けたバビロンの状態が預言される。

①バビロンは、悪霊どもの住み家となる。

②千年王国の期間、サタンは「底知れぬ所」（アビス）に投げ込まれる。

③黙20:2～3

Rev 20:2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って、

Rev 20:3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、

それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

④千年王国の期間、悪霊どもは2箇所に関じ込められる。

*バビロンとエドム(イザ34:8~16)

3. 3節

Rev 18:3 それは、すべての国々の民が、彼女の不品行に対する激しい御怒りのぶどう酒を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行い、地上の商人たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。」

(1) 「彼女の不品行に対する激しい御怒りのぶどう酒を飲み」

①黙17:2と似ている。そこでの「不品行」とは、靈的姦淫であった。

②ここでは、神に敵対する物質主義のことである。

*経済的・政治的バビロンが行う罪である。

(2) 地上のすべての民が、神に敵対する物質主義に征服される。

①すべての国々の民

②地上の王たち

③地上の商人たちは、巨万の富を得るようになる。

④ついに、神の裁きの時は満ちた。

II. 大バビロンからの脱出(4~5節)

1. 4節

Rev 18:4 それから、私は、天からのもう一つの声がこう言うのを聞いた。「わが民よ。この女から離れなさい。その罪にあずからないため、また、その災害を受けないためです。

(1) もう一つの声

①神の民(ユダヤ人)は、バビロンを脱出すべきである。

*バビロンの罪の影響を受けないため

*バビロンに下ろうとしている裁きから免れるため

②イザ48:20

Isa 48:20 バビロンから出よ。カルデヤからののがれよ。／喜びの歌声をあげて、これを告げ知らせよ。／地の果てにまで響き渡らせよ。／「【主】が、そのしもべヤコブを贖われた」と言え。

③エレ50:8

Jer 50:8 バビロンの中から逃げ、カルデヤ人の国から出よ。／群れの先頭に立つやぎのようになれ。

④創 19：12～13（ソドムを去れという警告がロトに与えられた）

2. 5 節

Rev 18:5 **なぜなら、彼女の罪は積み重なって天にまで届き、神は彼女の不正を覚えておられるからです。**

(1) バビロンを去らなければならない理由

- ①バビロンの罪が充ち満ちたからである。
- ②神は、バビロンの不正を覚えておられる。
- ③これ以上、バビロンの不正を見逃すわけにはいかない。

III. 大バビロンの罪の糾弾（6～8 節）

1. 6 節

Rev 18:6 **あなたがたは、彼女が支払ったものをそのまま彼女に返し、彼女の行いに応じて二倍にして戻しなさい。彼女が混ぜ合わせた杯の中には、彼女のために二倍の量を混ぜ合わせなさい。**

(1) 同害刑法（復讐法）（lex talionis）

①マタ 7：2

Mat 7:2 **あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。**

②ガラ 6：7

Gal 6:7 **思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。**

(2) バビロンの罪は大きいので、報いは行ったことの2倍である（旧約の復讐法）。

①出 22：4

Exo 22:4 **もし盗んだ物が、牛でも、ろばでも、羊でも、生きたままで彼の手の中にあるのが確かに見つかったなら、それを二倍にして償わなければならない。**

②イザ 40：2（口語訳）

Isa 40:2 **ねんごろにエルサレムに語り、これに呼ばわれ、その服役の期は終り、そのとがはずでにゆるされ、そのもろもろの罪のために二倍の刑罰を主の手から受けた。**

③ゼカ 9：12

Zec 9:12 **望みを持つ捕らわれ人よ。とりでに帰れ。／わたしは、きょうもまた告げ知らせる。／わたしは二倍のものをあなたに返すと。**

(3) 世界中の民が、反キリストに従い、物質的に豊かになった。

①彼らは、超えてはならない一線を越えた。

②彼らが神の義によって厳しく裁かれるのは、当然のことである。

2. 7節

Rev 18:7 彼女が自分を誇り、好色にふけたと同じだけの苦しみと悲しみとを、彼女に与えなさい。彼女は心の中で『私は女王の座に着いている者であり、やもめではないから、悲しみを知らない』と言うからです。

(1) バビロンの傲慢が、ついに裁かれる。

①「私は女王の座に着いている者である」

②「やもめではないから、悲しみを知らない」

*彼女は、諸国の王たちとの不法な関係(不品行)を誇っている。

3. 8節

Rev 18:8 それゆえ一日のうちに、さまざまの災害、すなわち死病、悲しみ、飢えが彼女を襲い、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は力の強い方だからです。

(1) 裁きは、一日のうちに行われる。

①ギリシア語では、「一日」が文頭に来ている。強調がある。

(2) 裁きの結果

①死病、悲しみ、飢えである。

②経済的・政治的バビロンは、火で焼き尽くされる。

③神こそ主権者であることが明らかになる。

結論：

1. 大バビロンとラオデキヤ教会の対比

(1) 黙18:7

Rev 18:7 彼女が自分を誇り、好色にふけたと同じだけの苦しみと悲しみとを、彼女に与えなさい。彼女は心の中で『私は女王の座に着いている者であり、やもめではないから、悲しみを知らない』と言うからです。

(2) 黙3:17

Rev 3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、衰れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。

(3) 大バビロンもラオデキヤ教会も、偽りの土台の上に自分を建てていた。

(4) ラオデキヤ教会は、キリストを外に閉め出していた。

(5) 自己欺瞞は、崩壊に先立つ心の状態である。

2. 大バビロンと愚かな金持ちの対比

(1) 大バビロンの崩壊は、突如襲う。

- ①反キリストは、イスラエルを滅ぼすために軍勢を集結させる。
- ②反キリストが留守にしている間に、神はバビロンを滅ぼされる。
- ③大バビロンは、一日で崩壊する。

(2) ルカ 12:16~20

Luk 12:16 それから人々にたとえを話された。／「ある金持ちの畑が豊作であった。

Luk 12:17 そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』

Luk 12:18 そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。』

Luk 12:19 そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』

Luk 12:20 しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』

3. 大バビロン脱出とこの世からの分離の対比

(1) 私たちへの適用

①1 テモ 5:22

1Ti 5:22 また、だれにでも軽々しく按手をしてはいけません。また、他人の罪にかかわりを持ってはいけません。自分を清く保ちなさい。

②エペ 5:11

Eph 5:11 実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出さなさい。

③2 コリ 6:14~15

2Co 6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。

2Co 6:15 キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者とに、何のかかわりがあるでしょう。

*分離の教え

*第一義的には、偽教師との分離である。

*適用は無数にある。

*ビジネス関係、交友関係

「経済的・政治的バビロンの崩壊(2)」

黙 18 : 9~24

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①15章~16章では、大患難時代後半の3年半に起こる出来事が取り上げられた。

②7つ鉢の裁きに続く出来事が、キリストの再臨である(19章)。

③16章と19章の間に17章と18章がある。

*17章は、大患難時代の前半に起こることの再記述である。

*18章は、大患難時代の後半に起こることの再記述である。

(2) 黙 17章と18章に出てくる「バビロン」の意味

①17章の大バビロンは、背教の世界統一教会。

②18章の大バビロンは、経済的・政治的バビロン。

③大患難時代の中で、経済的・政治的大バビロンが宗教的大バビロンを滅ぼす。

*黙 17 : 16

Rev 17:16 あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようになります。

④バビロンは、反キリストの経済的・政治的都となる。

⑤反キリストはイスラエルを攻撃するために軍勢をハルマゲドンに集結させる。

*第6の鉢の裁き(ハルマゲドンの戦いの第1段階)

⑥しかし神は、バビロンの都を滅ぼされる。

*ハルマゲドンの戦いの第2段階

2. アウトライン

(1) 大バビロンの崩壊を嘆く人たち(9~19節)

(2) 大バビロンの崩壊を喜ぶ人たち(20節)

(3) 大バビロンの崩壊の描写(21~24節)

3. 結論

(1) ロマ 12 : 19~21(復讐)

(2) マタ 6 : 19~21(地上の富)

大バビロンの滅亡について学ぶ。

I. 大バビロンの崩壊を嘆く人たち(9~19節)

1. 王たち(9~10節)

Rev 18:9 彼女と不品行を行い、好色にふけた地上の王たちは、彼女が火で焼かれる煙を見ると、彼女のことで泣き、悲しみます。

Rev 18:10 彼らは、彼女の苦しみを恐れたために、遠く離れて立っていて、こう言います。
『わざわいが来た。わざわいが来た。大きな都よ。力強い都、バビロンよ。あなたのさばきは、一瞬のうちに来た。』

(1) 「不品行を行い、好色にふけた地上の王たち」

- ① 黙 17:16 に登場する 10 人の王たちよりも広い意味での王たちである。
- ② 不品行、好色とは、反キリストと親密な関係にあったことを示す言葉である。
*ここでの大バビロンは、神に敵対する経済的・政治的システムである。
- ③ 地上の王たちは、その関係によって莫大な利益を得ていた。

(2) 王たちは、大バビロンが火で焼かれる煙を見る。

- ① 大バビロンは、火によって破壊される。
- ② 王たちは、泣き(大声を上げて)、悲しむ。
- ③ 大バビロンの崩壊は、反キリストの滅亡を意味する。
- ④ 王たちは、反キリストから富と権威を受けていた。
- ⑤ それゆえ、彼らの嘆きは極めて利己的なものである。

(3) 王たちは、非常に恐れている。

- ① 遠く離れて立つのは、自分も裁きに巻き込まれることのないようにするため。
- ② これまで大バビロンは非常に力強い都であった。
- ③ しかし、大バビロンよりも力強い方がおられることが明らかになった。
- ④ 大バビロンの崩壊は、確実に、徹底的なものである。
*「わざわいが来た」が2度繰り返されている。
- ⑤ 大バビロンの崩壊は、瞬時に起こる。

2. 商人たち(11~17節 a)

(1) 11節

Rev 18:11 また、地上の商人たちは彼女のことで泣き悲しみます。もはや彼らの商品を買う者がだれもないからです。

- ① 政治と経済は、密接に結びついている。
- ② 政治が崩壊すれば、経済不況がやって来る。

③黙 13 : 17

Rev 13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

④大バビロン崩壊により、反キリストに従う者たちは、経済活動ができなくなる。

(2) 12～14 節

Rev 18:12 商品とは、金、銀、宝石、真珠、麻布、紫布、絹、緋布、香木、さまざまな象牙細工、高価な木や銅や鉄や大理石で造ったあらゆる種類の器具、

Rev 18:13 また、肉桂、香料、香、香油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、麦粉、麦、牛、羊、それに馬、車、奴隷、また人のいのちです。

Rev 18:14 また、あなたの心の望みである熟したくだものは、あなたから遠ざかってしまい、あらゆるはでな物、はなやかな物は消えうせて、もはや、決してそれらの物を見いだすことができません。

①大バビロン崩壊の前は、国際貿易が活発に行われていた。

②商品が列挙されている（富のある国が所有する代表的な商品）

*金、銀、宝石、真珠、麻布、紫布、絹、緋布、香木、さまざまな象牙細工、高価な木や銅や鉄や大理石で造ったあらゆる種類の器具

*肉桂、香料、香、香油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、麦粉、麦、牛、羊、それに馬、車

*奴隷、また人のいのち

③奴隷の存在は、大患難時代にまで続く。

*今日でも、多くの奴隷が存在している。

④美食家が渴望する食物はなくなり、豪華な衣装も取り去られる。

(3) 15～17 節

Rev 18:15 これらの物を商って彼女から富を得ていた商人たちは、彼女の苦しみを恐れたために、遠く離れて立っていて、泣き悲しんで、

Rev 18:16 言います。『わざわいが来た。わざわいが来た。麻布、紫布、緋布を着て、金、宝石、真珠を飾りにしていた大きな都よ。』

Rev 18:17a あれほどの富が、一瞬のうちに荒れすたれてしまった。』

①商人たちは、大バビロンとの取引によって富を得ていた。

②彼らは、かつてなかった経済不況に直面し、泣き悲しむ。

③彼らは、遠く離れて立ち、王たちの言葉と同じような言葉を口にする。

④「わざわいが来た」が2度繰り返される。

⑤「麻布、紫布、緋布を着て、金、宝石、真珠を飾りにしていた大きな都よ」

⑥宗教的バビロンの描写と似ている(黙17:4)。

Rev 17:4 この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものや自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手に持っていた。

*遊女が着飾って、男を誘惑する様子が描かれている。

⑦大バビロンは、富によって商人たちを誘惑した。

3. 海で働く人たち(17b~19節)

(1) 17b~18節

Rev 18:17b また、すべての船長、すべての船客、水夫、海で働く者たちも、遠く離れて立っていて、

Rev 18:18 彼女が焼かれる煙を見て、叫んで言いました。『このすばらしい都のような所がほかにあろうか。』

①船長、船客(航海する者)、水夫

*商品を海洋輸送する人たちであろう。

*輸送する商品がなくなるので、嘆くのである。

②海で働く者たち

*漁師たち、真珠取りたち、など

*自分たちが獲ったものを買ってもらえなくなった。

③彼らもまた、遠く離れて立って、大バビロンの栄華が消え去るのを嘆く。

(2) 19節

Rev 18:19 それから、彼らは、頭にちりをかぶって、泣き悲しみ、叫んで言いました。『わざわいが来た。わざわいが来た。大きな都よ。海に舟を持つ者はみな、この都のおごりによって富を得ていたのに、それが一瞬のうちに荒れすたれるとは。』

①頭にちりをかぶるのは、深い悲しみの表現である。

②彼らもまた、大バビロンとの取引によって富を得ていた。

③大バビロンが一瞬のうちに滅びたので、彼らの商売も一瞬のうちに消え去った。

II. 大バビロンの崩壊を喜ぶ人たち(20節)

1. 20節

Rev 18:20 おお、天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都のことで喜びなさい。神は、あなたがたのために、この都にさばきを宣告されたからです。」

(1) 地上的視点から、天的視点に移行する。

①天にいる神の民は、大バビロン崩壊の宣言を聞いて、大いに喜ぶ。

- ②ついに、神の義が成就するからである。
- ③また、大バビロンが裁かれると、再臨が近いことが分かるからである。

(2) 3種類の人たち

- ①聖徒たち（すべての信者）
- ②使徒たち（神の啓示を伝えるための器となった人たち）
- ③預言者たち（やはり、神からの啓示の器となった人たち）

(3) 神の裁きは、この3種類の人たちのために行われる。

III. 大バビロンの崩壊の描写（21～24節）

1. 21節

Rev 18:21 また、ひとりの強い御使いが、大きい、ひき臼のような石を取り上げ、海に投げ入れて言った。「大きな都バビロンは、このように激しく打ち倒されて、もはやなくなって消えうせてしまう。」

(1) ひとりの強い御使いの行為

- ①ひき臼のような石を海に投げ入れた。
- ②聖書時代のひき臼は、巨大なもので、1トンを超えるものもあった。
- ③それを海に投げ入れるなら、永遠に失われてしまう。
- ④大バビロンの崩壊も、それと同じである。

2. 22～23節

Rev 18:22 立琴をひく者、歌を歌う者、笛を吹く者、ラッパを鳴らす者の声は、もうおまえのうちに聞かれなくなる。あらゆる技術を持った職人たちも、もうおまえのうちに見られなくなる。ひき臼の音も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。

Rev 18:23 ともしびの光は、もうおまえのうちに輝かなくなる。花婿、花嫁の声も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。なぜなら、おまえの商人たちは地上の力ある者どもで、すべての国々の民がおまえの魔術にだまされていたからだ。

(1) 大バビロンから、生活の営みが消え去る。

- ①音楽家たちがいなくなる。
- ②贅沢品を製造する職人たちがいなくなる。
- ③食物を生産する音が消え去る。
- ④ともしびの光が輝かなくなる。
- ⑤結婚式を挙げる者がいなくなる。

⑥大バビロンは、沈黙の町となる。

(2) 大バビロンが裁かれる理由は、彼女が地上のあらゆる人たちを騙していたからである。

3. 24節

Rev 18:24 **また、預言者や聖徒たちの血、および地上で殺されたすべての人々の血が、この都の中に見いだされたからだ。」**

(1) 大バビロンが裁かれるもう一つの理由は、聖徒たちを殺したことである。

- ①預言者や聖徒たちの血
- ②地上で殺されたすべての人々の血
- ③彼らは、主イエスに対する信仰のゆえに、殉教の死を遂げた。

(2) 神は、ご自身の義を成就された。

- ①これで、キリスト再臨の舞台は整った。

結論：

1. ロマ 12：19～21 (復讐)

Rom 12:19 **愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」**

Rom 12:20 **もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。**

Rom 12:21 **悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。**

(1) 「復讐するは我にあり」(佐木隆三の小説、直木賞、1979年に映画化)の意味

- ①報復は、神だけが行われる。
- ②悪に勝つ唯一の方法は、善を行うことである。

(2) 「彼の頭に燃える炭火を積むことになる」の意味。

- ①その人は、深い恥と痛みを感じるようになる。
- ②その結果、その人が悔い改めにいたる可能性は高くなる。

(3) 裁きを神に委ねることは、自分自身を解放する結果につながる。

2. マタ 6：19～21 (地上の富)

Mat 6:19 **自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、**

また盗人が穴をあけて盗みます。

Mat 6:20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。

Mat 6:21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。

(1) 聖書は、富は長続きしないと教えている。

Pro 27:24 富はいつまでも続くものではなく、／王冠も代々に続かないからだ。

(2) 死ぬと、自分が蓄積した財を地上に残すことになる。

Ecc 2:18 私は、日の下で骨折ったいっさいの労苦を憎んだ。後継者のために残さなければならぬからである。

(3) 1テモ6:7

1Ti 6:7 私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。

(4) 地上の宝か、天の宝か。

①大バビロンの崩壊は、地上の宝の虚しさを私たちに教えている。

②天に宝を積むことを第一にする人生は、幸いである。

③以下のことを確認しよう。

*私たちの国籍は天にある。

*富みに支配されるのではなく、その忠実な管理者となることを志そう。

*デボーション、祈り、礼拝、伝道などは、天に宝を積む行為である。

「ハレルヤの声と小羊の婚姻」

黙 19 : 1~10

1. はじめに

(1) これまでの復習

- ①大患難時代の前半の3年半を扱っているのは、6~9章。
- ②挿入箇所(物語の進展はない)は、10~14章。
- ③大患難時代の後半の3年半を扱っているのは、15~16章。
- ④前半の3年半の再記述は、17章。
- ⑤後半の3年半の再記述は、18章。
- ⑥再臨は、19章。

*キリストの再臨は、黙 19 : 11 以降に出てくる。

*黙 19 : 1~10 は、その前に起こるいくつかのことがらである。

(2) ハレルヤという言葉は、新約聖書には4回しか出てこない。

- ①すべてこの箇所に出てくる。
- ②ハレルヤは、罪人の裁き、聖徒の救いに関連して出てくる言葉である
- ③黙 19 : 1~6 を、新約聖書のハレルヤコーラスと呼ぶ人もいる。

2. アウトライン

- (1) 天における大群衆の賛美 (1~3 節)
- (2) 24 人の長老と 4 つの生き物の礼拝 (4~5 節)
- (3) 小羊の婚姻 (6~8 節)
- (4) 小羊の婚宴 (9~10 節)

3. 結論

- (1) 小羊の婚宴とユダヤ式結婚の関係

再臨の前に起こることがらについて学ぶ。

I. 天における大群衆の賛美 (1~3 節)

1. 1~2 節

Rev 19:1 この後、私は、天に大群衆の大きい声のようなものが、こう言うのを聞いた。／「ハレルヤ。救い、栄光、力は、われらの神のもの。

Rev 19:2 神のさばきは真実で、正しいからである。神は不品行によって地を汚した大淫婦を

さばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされたからである。」

(1) 「この後」

- ①大バビロンの崩壊後のことである。
- ②キリストの再臨前のことである。
- ③その間に、いくつかのことが起こる。

(2) 天で大群衆が神の栄光をたたえている。

- ①第1のハレルヤ
- ②大バビロンが滅ぼされた。
 - *これは、宗教的大バビロンである。
 - *大バビロンは、多くの聖徒たちの血を流した。
- ③大バビロンの滅びは、神による報復である。
- ④黙6:10

Rev 6:10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさないのですか。」

*殉教者たちの祈りが聞かれた。

2. 3節

Rev 19:3 彼らは再び言った。「ハレルヤ。彼女の煙は永遠に立ち上る。」

(1) 大群衆が、再び声を上げた。

- ①これは、経済的・政治的大バビロンに関する宣言である。
- ②大バビロンは、神の正義によって滅ぼされた。

(2) 「ハレルヤ。彼女の煙は永遠に立ち上る。」

- ①第2のハレルヤ
- ②この煙は、大バビロンが焼かれる煙である。
- ③大バビロンの滅びは永遠であることを示している。
- ④神の敵は、永遠に滅ぼされる。

II. 24人の長老と4つの生き物の礼拝(4~5節)

1. 4節

Rev 19:4 すると、二十四人の長老と四つの生き物はひれ伏し、御座についておられる神を拝んで、「アーメン。ハレルヤ」と言った。

(1) 「二十四人の長老と四つの生き物」

①黙4:9~10

Rev 4:9 また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげるとき、

Rev 4:10 二十四人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御座の前に投げ出して言った。

- ②これは、7つの封印を開く前の天の様子である。
- ③4つの生き物は、セラフィムである。
- ④24人の長老は、携挙された教会である。
- ⑤彼らは、神を礼拝した。
- ⑥これが第3のハレルヤである。
- ⑦彼らは、天から大患難時代の様子を目撃していた。

2. 5節

Rev 19:5 また、御座から声が出て言った。／「すべての、神のしもべたち。小さい者も大きい者も、神を恐れかしこむ者たちよ。われらの神を賛美せよ。」

- (1) この声は、天使の声である。
 - ①すべての人を礼拝へと招いている。
 - ②小さい者も大きい者も、神を恐れかしこむ者は、神を賛美せよと招かれている。
 - * 賛美し続けよという命令である。

Ⅲ. 小羊の婚姻 (6~8節)

1. 6節

Rev 19:6 また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、こう言うのを聞いた。／「ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。

- (1) 大群衆の声は、大滝の音のように、激しい雷鳴のように響いた。
 - ①これが、第4のハレルヤである。小羊の婚姻を喜ぶハレルヤである。
 - ②「ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた」
(新共同訳)
 - ③全能者 (the Almighty) は、黙示録ではよく出てくる神のタイトルである。
- (2) 訳文の比較
 - ①「万物の支配者である、われらの神である主は王となられた」(新改訳)
 - ②「全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた」(新共同訳)
 - ③「全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる」(口語訳)

④「全能の主、われらの神は統治(すべし)らすなり」(文語訳)

(3) 神は常に主権者であり、全能者である。

- ①これは、黙示録の主旋律である。
- ②その事実が、より明らかになろうとしている。
- ③御心が天になるごとく、地でもなろうとしている。
- ④神の統治は、千年王国の形を取るようになる。

*キリストは、エルサレムから、ダビデの王座に就いて統治される。

*ダビデ契約の成就である(2サム7:12~13)。

2. 7節

Rev 19:7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。

(1) 天にいる人たちは、喜び楽しみ、神をほめたたえる。

- ①小羊の婚姻が近いからである。

(2) 「花嫁はその用意ができたのだから」

- ①キリストと教会の関係が、結婚にたとえられる。
- ②花婿とは、小羊である。
- ③花嫁とは、教会である。

*キリストを信じた人は、その瞬間に花嫁の一部となる。

3. 8節

Rev 19:8 花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」

(1) 「花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された」

- ①婚姻は、キリストの御座の裁きの後で行われる。
- ②きよい麻布を着ることを許された。

(2) 聖徒たちは、神の栄光を反映させている。

- ①罪はすべて処理された。
- ②復活の体は、罪とは無関係の栄光の体である。

(3) 「その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである」

- ①「行い」は複数形である。

- ②これは、信仰による義のことではない。
- ③義とされた者が、神の恵みによって為した正しい行いである。

IV. 小羊の婚宴 (9~10 節)

1. 9 節

Rev 19:9 御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい」と言い、また、「これは神の真実のことばです」と言った。

- (1) 小羊の婚宴が行われる。
 - ①これは、千年王国が設立される前に地上で行われる。
 - ②この箇所では、招待客は招かれているだけで、婚宴はまだ始まっていない。

- (2) 招待客とは誰か。
 - ①ペンテコステの前に救われたすべての信者たち
 - * 聖霊降臨によって教会が誕生する前に信じた信者たちである。
 - * 彼らは、復活の体を持って千年王国に入る。
 - * バプテスマのヨハネもこの中に入っている。
 - ・「花婿の友人」(ヨハ3:27~30)
 - ②大患難時代に殉教の死を遂げた聖徒たち
 - * 彼らもまた、復活の体を持って千年王国に入る。

- (3) 「これは神の真実のことばです」
 - ①神が語られたことばは、すべて成就する。

2. 10 節

Rev 19:10 そこで、私は彼を拝もうとして、その足もとにひれ伏した。すると、彼は私に言った。「いけません。私は、あなたや、イエスのあかしを堅く保っているあなたの兄弟たちと同じしもべです。神を拝みなさい。イエスのあかしは預言の霊です。」

- (1) ヨハネは、栄光に富んだ天使を拝もうとした。
 - ①天使は、それを禁じた。
 - ②天使もまた、神に仕えるしもべである。
 - ③礼拝されるべきお方は、神だけである。

- (2) 「イエスのあかしは預言の霊です」
 - ①聖書にある預言は、イエスを証しするものである。

- ②その預言を与えたのは、聖霊である。
- ③今も聖霊は、キリストを証しするために働いておられる。

結論：

1. 小羊の婚宴とユダヤ式結婚の関係

*キリストと教会の関係が、ユダヤ式結婚(4段階ある)にたとえられる。

(1) 婚約の段階

- ①花婿の父が花嫁に花嫁料を支払って婚約が成立する。
- ②婚約は、花婿と花嫁がまだ子どもの時に行われることが多い。
- ③婚姻までは何年もかかる。
- ④最低でも1年の期間は置く。
- ⑤花婿と花嫁が婚姻の席で初めて顔を合わせることも、珍しくはない。
- ⑥クリスチャンは、キリストとの婚約段階にある。

*イエス・キリストの血潮が支払われている。

(2) 花婿が花嫁を迎えに行く段階

- ①時期を決めるのは、花婿の父親である。
- ②この段階は、携挙に当たる。
 - *住む場所の用意ができれば、キリストは迎えに来て下さる。
 - *1テサ4:13~18
 - *ヨハ14:1~3
- ③花婿キリストは、それがいつなのか知らない。父だけが知っている。
- ④使1:6~7

Act 1:6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」

Act 1:7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。」

(3) 婚姻の段階

- ①花嫁は、きよめの儀式を行う。
- ②式に出席するのは、家族や親戚だけである。少人数の出席者。
- ③教会は、きよめの儀式を通過している。
- ④黙19:7~8

Rev 19:7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用

意ができたのだから。

Rev 19:8 花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」

⑤教会は、キリストの御座の裁きを終えている。

*1 コリ 3 : 10～15

*信者になってからの生活が、火によって試される。

*本物だけが残る。それが、「聖徒たちの正しい行い」である。

(4) 婚宴の段階

①大勢の客を招いて、7日間続く。

②この聖書箇所では、招待状が出されただけで、婚宴はまだ行われていない。

③次に起こるのは、キリストの地上再臨である。

④携挙と地上再臨が同じものではないことは、明らかである。

⑤婚約者との結婚を楽しみに待つ生活が、クリスチャン生活である。

「キリストの再臨」

黙 19 : 11~21

1. はじめに

(1) これまでの復習

①大患難時代を扱っているのは、6~18章。

②再臨を扱っているのは、19章。

*黙 19 : 1~10 は、再臨の前に起こるいくつかのことがらである。

*黙 19 : 11 以降に、再臨が出てくる。

(2) 旧約聖書のメシア預言には2つの流れがあった。

①受難のしもべ（初臨のメシア）

②王の王（再臨のメシア）

③両方のメシア像を理解しないと、神の計画の全貌を理解したことにはならない。

*イエス時代のユダヤ人たちが持っていたメシア像は、「王の王」である。

*異邦人信者の多くが持っているメシア像は、「受難のしもべ」である。

④現在でも、メシアの到来を待っているユダヤ人がいる。

*メシアニック・ジューには、広義の意味と狭義の意味がある。

2. アウトライン

(1) 白い馬に乗った方の啓示（11~13節）

(2) キリストの再臨（14~18節）

(3) ハルマゲドンの戦い（19~21節）

3. 結論

(1) 再臨がもたらす裁き

(2) 再臨がもたらす祝福

キリストの再臨について学ぶ。

I. 白い馬に乗った方の啓示（11~13節）

1. 11節

Rev 19:11 また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。

(1) 「またわたしが見ていると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた」（口語訳）

- ①イエスがバプテスマを受けたとき、天が開かれて聖霊が鳩のように下った。
- ②ここでは、天が開かれて再臨のメシアが地に下ってこられる。
- ③黙4：1では、ヨハネを招くために天が開かれた。
- ④ここでは、キリストが地に下るために天が開いた。

(2) 白い馬に乗った方

- ①ローマ軍の将軍は、白い馬に乗った。
- ②再臨のキリストは、天の軍勢の将軍として白い馬に乗られる。
- ③初臨のキリストはロバの子に乗られたが、再臨のキリストは白い馬に乗られる。

(3) 「忠実また真実」と呼ばれる方

- ①ヘブ林的には、名前やタイトルは、その人の実質を表わす。
- ②キリストは、ご自身の約束に忠実で真実なお方である。
- ③マタ24：30

Mat 24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。

- ④反キリストは、契約を破る不真実な者である。

(4) 「義をもってさばきをし、戦いをされる」

- ①キリストは、すべての敵を滅ぼされる。
- ②この戦いは、反キリストと悔い改めない罪人に対する神の怒りの表現である。

2. 12～13 節

Rev 19:12 その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。

Rev 19:13 その方は血に染まった衣を着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。

(1) 「その目は燃える炎であり」

- ①キリストは、すべてのことを見抜かれるお方である。
- ②黙1：14

Rev 1:14 その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。

- ③キリストが再臨されたとき、すべてのことが明るみに出される。

(2) 「その頭には多くの王冠があつて」

- ①これは王がかぶる王冠である(ダイアDEM)。
 - ②キリストは王の王である。
 - ③キリストの権威に挑戦できる者はいない。
- (3)「ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた」
- ①キリストは、筆舌に尽くし難いお方である。
 - *その御名はまだ啓示されていない。
 - ②実際の名は、「神のことば」である。
 - ③ヨハ1:1

Joh 1:1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

- (4)「その方は血に染まった衣を着ていて」
- ①この血は、イエスご自身の血ではなく、敵の血である。
 - ②イザ63:1~6 参照
 - *エドムから来る者、ボツラから深紅の衣を着て来るこの者
 - *酒ぶねを踏んだので着物は赤い。
 - ③キリストは、裁き主として戻って来られる。
 - *敵の血が流されることの予告である。

II. キリストの再臨(14~18節)

1. 14節

Rev 19:14 天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。

- (1)「軍勢」は複数形である。
- ①2つの軍勢が再臨のキリストにつき従う。
 - ②敵と戦うのは、キリストだけである。

(2) 天使たちの軍勢

- ①マタ16:27

Mat 16:27 人の子は父の栄光を帯びて、御使いたちとともに、やがて来ようとしているのです。その時には、おのおのその行いに応じて報いをします。

- ②マタ25:31

Mat 25:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。

- ③2テサ1:7

2Th 1:7 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現れるときに起こります。

(3) 聖徒たちの軍勢

- ①「まっ白な、きよい麻布を着て」とは、聖徒たちのことである。
- ②黙19:8では、同じ言葉がキリストの花嫁に用いられていた。

2. 15～16節

Rev 19:15 この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。

Rev 19:16 その着物にも、ももにも、「王の王、主の主」という名が書かれていた。

(1) 鋭い剣

- ①剣は、敵を打ち破るキリストの権威を象徴している。
- ②「口から出ていた」とあるので、ことばをもって敵を滅ぼされるのであろう。

(2) 鉄の杖

- ①詩2:9

Psa 2:9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、／焼き物の器のように粉々にする。』

- ②キリストの統治は完璧であり、それに従わない者はいない。

(3) 「神の激しい怒りの酒ぶねを踏む」

- ①裁きを意味する比喩的表現である。
- ②ぶどう液ではなく、裁かれた者の血が流れ出す。
- ③再臨のキリストは、裁き主である。

(4) もうひとつの名は、「王の王、主の主」である。

- ①長く待望していたメシアが、ついに来られた。

3. 17～18節

Rev 19:17 また私は、太陽の中にひとりの御使いが立っているのを見た。彼は大声で叫び、中天を飛ぶすべての鳥に言った。「さあ、神の大宴会に集まり、

Rev 19:18 王の肉、千人隊長の肉、勇者の肉、馬とそれに乗る者の肉、すべての自由人と奴隷、小さい者と大きい者の肉を食べよ。」

- (1) ハルマゲドンの戦いの前に、空の鳥たちに宴会への招待状が送られた。
 - ①太陽の中に立っているひとりの御使いが大声で叫んだ。
 - ②すべての鳥がその天使を見ることができた。
- (2) 宴会の内容は、肉を食べることである。
 - ①王の肉、千人隊長の肉、勇者の肉、馬とそれに乗る者の肉、すべての自由人と奴隷、小さい者と大きい者の肉。
 - ②神に敵対した者たちは、ハルマゲドンの戦いで殺される。

III. ハルマゲドンの戦い（19～21 節）

1. 19 節

Rev 19:19 **また私は、獣と地上の王たちとその軍勢が集まり、馬に乗った方とその軍勢と戦いを交えるのを見た。**

- (1) 反キリストとその軍勢は、戦わずしてあきらめることはない。
 - ①反キリストは、地上の王たちとその軍勢を招集し、再臨のキリストと戦う。

2. 20 節

Rev 19:20 **すると、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々を感わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕らえられた。そして、このふたりは、硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。**

- (1) ハルマゲドンの戦いの結果
 - ①獣（反キリスト）は、捕らえられた。
 - ②偽預言者も、獣といっしょに捕らえられた。
 - ③ふたりは、生きたままで「硫黄の燃えている火の池」に投げ込まれた。

3. 21 節

Rev 19:21 **残りの者たちも、馬に乗った方の口から出る剣によって殺され、すべての鳥が、彼らの肉を飽きるほどに食べた。**

- (1) 反キリストの軍勢の残りの者たちは、再臨のキリストのことばによって殺された。
 - ①異邦人の軍勢の裁きである。
 - ②招待されていた鳥たちは、彼らの肉を飽きるほどに食べた。

結論：

1. 再臨がもたらす裁き

(1) 「燃える火の池」とは、永遠の地獄である。

- ①これは、現実存在する場所である。
- ②これは、最初の被造世界には含まれていなかった。
- ③これは、悪魔と墮天使たちを閉じ込めるために用意されたものである。
- ④再臨の後に、異邦人の裁きが行われる(羊と山羊の区別)。

Mat 25:41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。』

⑤悪の三位一体の中で、先にそこに入るのは、反キリストと偽預言者である。

(2) 悪魔は、「底知れぬ所」(アビス)に閉じ込められる。

- ①千年後に解放されるが、最終的には、「燃える火の池」に投げ込まれる。
- ②偽の三位一体は、すべて「燃える火の池」に投げ込まれる。

(3) 罪人の魂は、ハデスに閉じ込められている。

①白い御座の裁きの後、「燃える火の池」に投げ込まれる。

(4) 「燃える火の池」での裁きには、種々の段階がある。

①マタ 10 : 15

Mat 10:15 まことに、あなたがたに告げます。さばきの日には、ソドムとゴモラの地でも、その町よりはまだ罰が軽いのです。

②ルカ 12 : 47~48

Luk 12:47 主人の心を知りながら、その思いどおりに用意もせず、働きもしなかったしもべは、ひどくむち打たれます。

Luk 12:48 しかし、知らずにいたために、むち打たれるようなことをしたしもべは、打たれても、少しで済みます。すべて、多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されます。

③黙 20 : 12

Rev 20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。

2. 再臨がもたらす祝福

(1) キリストは、地上に千年王国を設立される。

- ①それは、完璧な王であるキリストが支配する正義の王国である。
- ②そこには、回復された自然界がある。

(2) 私たちは、復活の体をもってその王国の住民となる。

(3) 千年後には、永遠の御国に住まうようになる。

「千年王国」

黙 20 : 1～6

1. はじめに

(1) これまでの復習

①大患難時代を扱っているのは6～18章、再臨を扱っているのは19章。

②旧約聖書のメシア預言には2つの流れがあった。

*受難のしもべ（初臨のメシア）と王の王（再臨のメシア）

③再臨のメシアが、地上に千年王国を設立される。

(2) 千年王国論

①千年期前再臨説

*メシアの再臨があって、次に千年王国が設立される。

*その王国は、地上で千年間続く文字通りの政治的王国である。

*キリストが王として聖徒たちとともに全世界を統治される。

②無千年王国説

*地上に文字通りの神の国が出現するわけではない。

*霊的な神の国は、今の時代の教会からなっている。

*神の国とは、キリストが天から信者の心を支配しておられる状態のこと。

*キリストの再臨とともに、すぐに永遠の秩序が始まる。

③千年期後再臨説

*キリストは、千年王国（神の国）が成就した後に再臨される。

*人間の努力によって、理想的な状況（社会の状態）が訪れる。

*教会は、神の国を出現させるための協力者となるべきである。

(3) 黙示録20章の解釈は、旧約預言の解釈を決定づける。

*私たちは、字義通りに解釈した結果、千年期前再臨説を採用している。

2. アウトライン

(1) 悪魔の縛り（1～3節）

(2) 千年王国（4～6節）

3. 結論

(1) 第一の復活

(2) 第二の復活

千年王国について学ぶ。

I. 悪魔の縛り（1～3節）

1. 1節

Rev 20:1 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から下って来るのを見た。

(1) 「また」

- ①ギリシア語の「カイ」である。
- ②黙19:1は、「この後」という言葉から始まった。
- ③黙19章では、「カイ」で始まる節が15もある。
- ④黙20章はその続きで、5節以外の節はすべて、「カイ」で始まっている。
- ⑤つまり、黙19章（再臨）と黙20章（千年王国）は、時間順になっている。

(2) 黙19章では、獣（反キリスト）と偽預言者が裁かれた。

- ①彼らは、「火の池」に投げ込まれた。
- ②次に、再臨のキリストが取り扱うのはサタンである。

(3) サタンを裁くために用いられるのが御使いである。

① 「底知れぬ所のかぎ」

- *アビス（アブソス）を開いたり、閉じたりする鍵である。
- *アビスは、悪魔を一時的に閉じ込めておく場所である。

② 「大きな鎖」

- *サタンを縛るためのものである。

2. 2～3節

Rev 20:2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って、

Rev 20:3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

(1) 悪魔の呼称

- ①竜（ドゥラコウン）は、悪魔の凶暴な性質を表わす比喩である。
- ②古い蛇（オフィス）は、創世3章に登場する蛇への言及である。
- ③悪魔（ディアボロス）には、敵対する者という意味がある。
- ④サタン（サタナス）には、敵対する者以外に、糾弾する者という意味がある。

(2) 天使の行為

- ①悪魔を捕らえ、千年の間、縛った。
- ②「底知れぬ所」（アブソス）に投げ込んで、そこを閉じ、封印をした。
- ③千年の終わるまでは、閉じ込めたままにした。

(3) サタンの縛りのタイミング

- ①無千年王国説では、初臨の時にサタンの縛りが行われたとされる。
- ②しかし、黙20:1~3は、サタンの縛りは再臨後に起こると教えている。
- ③今の時代も、サタンは活発に動き回っている。
- ④1ペテ5:8

1Pe 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

(4) 千年王国においては、サタンの惑わしや誘惑はなくなる。

- ①イザ2:4

Isa 2:4 主は国々の間をさばき、／多くの国々の民に、判決を下す。／彼らはその剣を鋤に、／その槍をかまに打ち直し、／国は国に向かって剣を上げず、／二度と戦いのことを習わない。

- ②イザ11:3~5

Isa 11:3 この方は【主】を恐れることを喜び、／その目の見るところによってさばかず、／その耳の聞くところによって判決を下さず、

Isa 11:4 正義をもって寄るべのない者をさばき、／公正をもって国の貧しい者のために判決を下し、／口のむちで国を打ち、／くちびるの息で悪者を殺す。

Isa 11:5 正義はその腰の帯となり、／真実はその胸の帯となる。

- ③イザ35:1~2

Isa 35:1 荒野と砂漠は楽しみ、荒地は喜び、／サフランのように花を咲かせる。

Isa 35:2 盛んに花を咲かせ、喜び喜んで歌う。／レバノンの栄光と、／カルメルやシャロンの威光をこれに賜るので、／彼らは【主】の栄光、私たちの神の威光を見る。

(5) 千年王国が終わると、サタンが解き放たれる。

- ①サタンは、神に向かって最後の戦いを挑む。
- ②サタンに従う人々（千年王国の間に誕生した人の中からそういう者が出る）。
- ③神は、直ちに、また最終的に、この反乱を鎮める。
- ④次に、白い御座の裁きが行われる。
- ⑤サタンと罪人たちは、燃える火の池に投げ込まれる。

II. 千年王国 (4~6 節)

はじめに

(1) 千年王国に関する啓示は、たった3節だけである。

①黙示録の目的は、旧約聖書のあちこちに出てくる預言を時間順に並べること。

*大患難時代の説明に13章を要した(6~18章)。

②メシア的王国(千年王国)に関する記述は、時間順に並べる必要がない。

③黙20:4~6は、旧約聖書にない情報を提供してる。

*旧約聖書の預言のクライマックスは、メシア的王国である。

*黙示録の啓示がないなら、メシア的王国が永遠の御国だと誤解してしまう。

*黙示録の啓示によって、メシア的王国が千年間続くことが明らかになった。

*黙20章には、千年という言葉が6回出てくる。

(2) メシアの再臨と千年王国の間には、75日間のインターバルがある。

①ダニ12:11~13

Dan 12:11 常供の燔祭が取り除かれ、荒す憎むべきものが立てられる時から、千二百九十日が定められている。

Dan 12:12 待っていて千三百三十五日に至る者はさいわいです。

Dan 12:13 しかし、終りまであなたの道を行きなさい。あなたは休みに入り、定められた日の終りに立って、あなたの分を受けるでしょう」。

*大患難時代の後半は、3年半(1260日)である。

*大患難時代の後、さらに30日が用意されている(1260+30=1290日)。

*それからさらに、45日が用意されている(1290+45=1335日)。

②これは、千年王国が出来上がるための準備期間である。

*反キリストと偽預言者が火の池に投げ込まれる。

*悪魔が、「底知れぬ所」(アビス)に閉じ込められる。

*生きている異邦人が、裁かれる(羊と山羊の選別)。

*旧約時代の聖徒たちと、大患難時代の殉教者たちが復活する。

・ダニ12:2、イザ26:19参照。

*ダビデの王座が確立される。

*小羊の婚宴が開かれる。

1. 4節a

Rev 20:4a また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。

(1) 多くの座に座る人たちとは、誰か。

①12使徒

Luk 22:30 それであなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食事をし、王座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。

②教会

1Co 6:2 あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。世界があなただがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたは、ごく小さな事件さえもさばく力が無いのですか。

*12使徒は教会に含まれている。

③この座に座る者たちには、さばきを行う権威が与えられた。

2. 4節b

Rev 20:4b また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。

(1) 次にヨハネは、大患難時代の殉教者たちのたましいを見た。

①「イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たち」とは、大患難時代の前半の殉教者たちである。

②「獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たち」とは、大患難時代の後半の聖徒たちである。

(2) 彼らは復活し、千年の間、キリストとともに統治した。

①「王となった」と訳されている言葉は、「統治した」、「支配した」という意味。

3. 5節a

Rev 20:5a そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。

(1) 5節をひとくくりにして読んではならない。

①5節aは、挿入句である。

②罪人は、千年王国が終わるまでは、復活しないという意味である。

③罪人たちは、白い御座の裁きを受けるために復活する。

4. 5節b～6節

Rev 20:5b これが第一の復活である。

Rev 20:6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに

に、千年の間王となる。

- (1) 第一の復活は、義人の復活である。
 - ①第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。
 - ②永遠にキリストの御前に出ることができる（祭司は、仲介者を必要としない）。
 - ③千年の間、キリストとともに統治する。
- (2) 第二の死は、なんの力も持っていない。
 - ①第一の死は、肉体の死である。魂と肉体の分離である。
 - ②第二の死は、神との永遠の分離である（燃える火の池）。

結論：

1. 第一の復活

(1) ダニ 12 : 2

Dan 12:2 地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。

- ①永遠のいのちへの復活と、そしりと永遠の忌みへの復活の2つがある。
- ②その間には、千年の時間差がある。
- (2) 第一の復活は、信者の復活である。
 - ①主イエスの復活は、「初穂」である（1 コリ 15 : 20）。
 - ②携挙の時に起こる、教会時代の聖徒たちの復活（1 テサ 4 : 16）
 - ③大患難時代の間中期に起こる、2人の証人たちの復活（黙 11 : 11）
 - ④再臨後に起こる、旧約時代の聖徒たちの復活（イザ 26 : 19、ダニ 12 : 2）
 - ⑤再臨後に起こる、大患難時代の殉教者たちの復活（黙 20 : 4）

2. 第二の復活

(1) ヨハ 5 : 28~29

Joh 5:28 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。

Joh 5:29 善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。

- ①これは、裁きのための復活である。
- (2) 黙 20 : 11~15 に、白い御座の裁きが出てくる。
 - ①第二の復活は、この裁きを受けるための復活である。
 - ②その後、火の池に投げ込まれる。

「白い御座の裁き」

黙 20 : 7～15

1. はじめに

(1) これまでの復習

- ①大患難時代を扱っているのは6～18章。
- ②再臨を扱っているのは19章。
- ③千年王国を扱っているのは20章。
 - *20 : 1～6 千年王国
 - *20 : 7～10 サタンの反乱
 - *20 : 11～15 白い御座の裁き
- ④21章に入ると、新しい天と新しい地が登場する。
 - *黙示20章がなければ、メシア的王国が永遠の御国だと誤解してしまう。
 - *旧約預言では、メシア的王国が永遠の御国のように描写されている。
 - *黙示20章は、メシア的王国が千年間続くと教えている。
 - *その先に、永遠の御国が用意されている。
- ⑤では、どうしてサタンは千年の終わりに解放されるのか。
- ⑥聖書が教える死とは、何か。

2. アウトライン

- (1) サタンの反乱 (7～10 節)
- (2) 白い御座の裁き (11～15 節)

3. 結論

- (1) 旧約時代における死
- (2) 新約時代における死
- (3) 千年王国における死

白い御座の裁きについて学ぶ。

I. サタンの反乱 (7～10 節)

1. 7～8 節

Rev 20:7 しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、

Rev 20:8 地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。

(1) 千年王国の最後に、サタンが底知れぬ所から再び解き放たれる。

- ①その理由は、再び人類を試すためである。
- ②神は、人類がいかに墮落しているかを証明される。

(2) 千年王国にも罪は存在する。

- ①千年王国が始まった時点では、未信者は存在しない。
- ②千年王国では、ほぼ理想に近いような生活環境が実現する。
- ③しかし、新しく誕生した者たちの中に未信者が出てくる。
- ④千年王国の終わり近くには、信仰を持っていない人々の数が増加する。
- ⑤それらの人々を試すために、サタンが解き放たれる。

(2) サタンは、世界の諸国民を惑わす。

- ①サタンの性質は変わらない。欺きと偽りの業を行う。
- ②「ゴグとマゴグ」は、その惑わしが広範囲に広がることを表わしている。
- ③サタンに従う罪人たちの数は、海辺の砂のようになる。
- ④この戦いは、エゼ38:1~39:16に預言されている戦いに似ている。
 - *エゼキエル書に預言された戦いは、大患難時代の直前に起こる。
 - *ここに書かれた戦いは、千年王国の最後に起こる。
 - *ともに、イスラエルの民への攻撃がその内容である。
 - *ここでは、「ゴグとマゴグ」という言葉が比喩的に用いられている。

2. 9節

Rev 20:9 彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。

(1) サタンと異邦人の軍勢は、イスラエルの民に攻撃をしかける。

- ①エルサレムは、キリストによる統治のヘッドクォーターである。
- ②千年間その状態が続く(イザ2:1~5)。

(2) しかし、サタンとその軍勢は、突如降ってくる天からの火で焼き尽くされる。

- ①キリストはただちにその反乱を鎮圧する。

3. 10節

Rev 20:10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

(1) サタンは、「火と硫黄との池」に投げ込まれ、そこで永遠の苦しみを受ける。

- ①そこには、獣(反キリスト)もにせ預言者も、ともにいる。
- ②悪霊どもも、「火と硫黄との池」に投げ込まれる(マタ25:41)。
 - *千年王国の期間、悪霊どもは2箇所閉じ込められる。
 - *バビロンとエドム(黙18:2、イザ34:8~16)
- ③サタンのさばきと並行して、キリストに一切の権威が与えられる。

(2) 1コリ15:24~28

1Co 15:24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。

1Co 15:25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。

1Co 15:26 最後の敵である死も滅ぼされます。

1Co 15:27 「彼は万物をその足の下に従わせた」からです。ところで、万物が従わせられた、と言うとき、万物を従わせたその方がそれに含まれていないことは明らかです。

1Co 15:28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

- ①すべての敵が、キリストの支配に服す。
- ②最後の敵は、サタンではなく、死である。
- ③千年王国でも死は存在する。
- ④人類に死をもたらした張本人は、サタンである。
- ⑤そのサタンが滅びたとき、死もまた滅ぼされる。
- ⑥御子キリストは、御国を父なる神にお渡しになる。
 - *キリストの支配は、すべての敵が滅びるまでと決められている。
- ⑦こうして、神がすべてにおいてすべてとなられる。

II. 白い御座の裁き(11~15節)

1. 11節

Rev 20:11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。

(1) 千年王国が終わると白い御座のさばきが始まる。

- ①これは、新しい天と新しい地が出現するための準備でもある。
- ②「そこに着座しておられる方」とは、イエス・キリストである。
- ③キリストにすべてのさばきが委ねられている。

Joh 5:22 また、父はだれをも裁かず、裁きは一切子に任せておられる。

(2) 「地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった」

①創世記1章以来存在していた地と天とが消え去るということである。

②その次に出現するのが、新しい天と新しい地である。

2. 12節

Rev 20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。

(1) 白い御座のさばきでは、あらゆる時代の罪人たちがさばかれる。

①信者がこのさばきを受けることはない。

②さばきのために、何種類かの書物が開かれる。

(2) 「数々の書物」

①各人の行ないが記録された書物である。

②罪人は、この書物に書かれた内容によってさばかれる。

③このさばきには、弁護士はいない。

(3) 「いのちの書」

①この地上に誕生したすべての人の名が書き記されたものである。

②罪人のままで死んだ人の名は、その書からは消し去られる。

* (詩 139 : 16、69 : 28、黙 3 : 5 参照)

③罪人のさばきは、「いのちの書」からその名が消されていることを確認した後、「数々の書物」に記された内容に従って行なわれる。

(4) 「小羊のいのちの書」

①これは、信者の名が記されたものである。

②信者の名は、天地創造の前からその書に記されている

* (黙 13 : 8、17 : 8 参照)

(5) 罪人のさばきには、軽重がある。

①どれだけの啓示が与えられていたか。

②どのような生活をしてきたか。

*（マタ 11：20～24、ルカ 12：47～48、ヨハ 19：11 など参照）

3. 13 節

Rev 20:13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。

(1) 白い御座のさばきに続いて、第二の復活についての説明がなされる。

① 「海はその中にいる死者を出し、」

*からだは、どこで、どのような状態で散らばっていても、復活する。

② 「死とハデスも、その中にいる死者を出した」

*死んだからだと魂が、結合する。死とは墓のことである。

(2) 第二の復活とは、すべての未信者の復活のことである。

①まず、反キリストの復活がある。

*反キリストの復活は、未信者たちの復活の初穂となる。

②次に、白い御座のさばきの前に、あらゆる時代の未信者たちが復活する。

*反キリストの復活と未信者たちの復活の間には、千年間の隔りがある。

*さらに、第一の復活と第二の復活の間にも、千年間の隔りがある。

③未信者の肉体とたましいが合体して、白い御座のさばきを受ける。

④第1の復活（信者の復活）は、神からの栄誉と祝福を受けるためのものである。

⑤第2の復活（未信者の復活）は、神からのさばきを受けるためのものである。

⑥彼らは、自らの行ないに応じてさばかれる。

4. 14～15 節

Rev 20:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

Rev 20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

(1) 最後の敵は、死である。

①1 コリ 15：26

1Co 15:26 最後の敵である死も滅ぼされます。

② 「死とハデス」とは、火の池に投げ込まれる。

*ハデスは、死が宿る場所である。

(2) 「いのちの書に名のしるされていない者」とは、未信者である。

①彼らは、火の池に投げ込まれる。

② 「第二の死」とは、神との永遠の分離である。

結論：

1. 旧約時代の死

- (1) 死者の肉体とたましいとは分離し、肉体は墓に葬られた。これが、第一の死。
 - ② 死人のたましいは、「シオール」(ヘブル語)に行く。
 - ① 新改訳聖書では「よみ」
 - ② 口語訳聖書と新共同訳聖書では「陰府」
 - (3) 「シオール」は、ギリシヤ語で「ハデス」となる。
 - ① 新改訳聖書では「ハデス」
 - ② 口語訳聖書では「黄泉」
 - ③ 新共同訳聖書では「陰府」
 - (4) 旧約時代、この場所は二つの場所に分かれていた。
 - ① その間を行き来することは、不可能であった(ルカ16:19~31参照)。
 - ② 義人のたましいが行く場所は、「アブラハムのふところ」、あるいは、「パラダイス」(ルカ23:43)と呼ばれている。
 - ③ 罪人のたましいが行く場所は、一般的に「地獄」と呼ばれる場所である。

2. 新約時代の死

- (1) 第一の死を経験するのは、新約時代も同じである。
- (2) 義人のたましいは、ただちに天に上げられる(2コリ5:8、ピリ1:23)。
- (3) キリストの死と復活がハデスの状況を一変させた。
 - ① 死によってキリストの肉体は墓に葬られた。
 - ② そのたましいは、「パラダイス」に行き、贖いが完了したことを宣言した。
 - ③ 昇天に際して、キリストは「パラダイス」にとどまっていたすべてのたましいを天に引き連れて行かれた(エペ4:8~10)。
 - ④ キリストの昇天以降、ハデスには「苦しみ領域」だけが残っている。
 - ⑤ 未信者のたましいは、ハデスの苦しみ場所に行く。
- (4) 第二の復活によって未信者のからだたましいとは再び結合する。
 - ① その結果、ハデスの苦しみ場所(地獄)も消滅することになる。
- (5) 白い御座のさばきの後、未信者は「火の池」に投げ込まれる。
 - ① これが第二の死である。

3. 千年王国における死

(1) イザ65:20の訳文の比較

Isa 65:20 そこには、もはや若死にする者も／年老いて長寿を満たさない者もなくなる。百歳で死ぬ者は若者とされ／百歳に達しない者は呪われた者とされる。(新改訳)

Isa 65:20 わずか数日で死ぬみどりごと、おのが命の日を満たさない老人とは、もはやその中にいない。百歳で死ぬ者も、なお若い者とせられ、百歳で死ぬ者は、のろわれた罪びととされる。(口語訳)

(2) イザ 65 : 20 の意味

- ① 幼くして死ぬ者はいない。
- ② 死ぬ場合でも、その年齢は 100 歳である。
- ③ 死ぬのは罪人だけである。「のろわれた罪びと」

(3) 千年王国における生と死のまとめ

- ① 生まれつきのからだで千年王国に入るのは、ユダヤ人と異邦人の信者だけ。
 - * ユダヤ人は、メシアの再臨の前に全員が救われる。
 - * 山羊の異邦人は殺され、羊の異邦人だけが千年王国に入る。
- ② サタンの活動がなくても、地上に罪人が増える。
- ③ 千年王国においても、救いは信仰と恵みによる。
 - * 救いの土台は、キリストの十字架の死である。
- ④ 罪人は、信じるまでに 100 年の期間が与えられている。
 - * 信じなければ、100 歳で死ぬ。
- ⑤ 信じれば、千年王国において死ぬことはなくなる。
 - * 聖書には、千年王国の聖徒の復活は出てこない。
- ⑥ 千年王国においては、ユダヤ人の不信者は存在しない。
 - * エレ 31 : 31~34 の新しい契約

「新しい天と新しい地」

黙 21 : 1~8

1. はじめに

(1) 旧約聖書の預言のハイライトは、メシア的王国である。

①旧約の預言者たちは、くり返しメシア的王国の到来を預言している。

*これは、苦難の中を通過している契約の民への励ましとなった。

②メシア的王国は、永遠の御国ではなく、文字どおり千年で終わるものである。

*黙示 20 章で、それが啓示された。

*それゆえ、クリスチャンはメシア的王国を千年王国と呼ぶ。

③千年王国の先については、旧約の預言者たちは何も預言していない。

④それを預言しているのが、黙示 21 章と 22 章である。

(2) 旧約聖書にはない新しい預言

①創世 1 章以来続いていた被造世界は、やがて過ぎ去る。

②新しい天と新しい地が創造される。

*これは、罪の影響の全くない新しい宇宙の秩序、理想郷である。

③新しいエルサレムが天から下ってくる。

2. アウトライン

(1) 新しい天と新しい地 (1 節)

(2) 新しいエルサレム (2 節)

(3) 第 1 の宣言 (3~4 節)

(4) 第 2 の宣言 (5~8 節)

3. 結論：天のエルサレムに関する 3 つの聖書箇所

(1) ガラ 4 : 25~26

(2) ヘブ 11 : 9~10

(3) ヘブ 12 : 22~24

新しい天と新しい地について学ぶ。

I. 新しい天と新しい地 (1 節)

1. 1 節

Rev 21:1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

(1) 聖書の物語の流れ

- ①エデンの園で始まった。
- ②エデンの園で、アダムとエバは、神に対して罪を犯した。
- ③そのため、神は地をのろわれた。

*創3：17～18

*ロマ8：20～22

- ④千年王国は、エデンの園の状態の回復であるが、罪は依然として存在する。
- ⑤永遠の秩序が現れる前に、「以前の天」と「以前の地」はなくなる。

*「最初の天と最初の地」（新共同訳）

*「先の天と先の地」（口語訳）

*「以前の天」とは、第1の天と第2の天である。このふたつは消滅する。

- ⑥新しい天と地が、古いものにとって代わる。

(2) 他の聖書箇所も、天と地は過ぎ去ると教えている。

- ①詩102：25～26
- ②イザ51：6
- ③マタ24：35

Mat 24:35 この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

④2 ペテ3：10～11

2Pe 3:10 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。

2Pe 3:11 このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとなれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょうか。

(3) 今の地球とは異なった環境が出現する。

- ①今の地球は、その大半が海で覆われている。

*その海がなくなる。

*千年王国には海が存在する。

- ②海に代わって、「命の水の川」（黙22：1）が用意される。

II. 新しいエルサレム（2節）

1. 2節

Rev 21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。

- (1) 「新しい天と新しい地」の中に、「新しいエルサレム」が据えられる。
 - ①新しいエルサレムは、新たに創造されるのではなく、天から下ってくる。
 - ②新しいエルサレムは、第三の天にすでに存在していた(ガラ4:26参照)。
 - ③アブラハムが求めていたのは、天のエルサレムである(ヘブ11:9~10)。
- (2) 新しいエルサレムには、罪や不義は存在しない。
 - ①新しいエルサレムは、実際に存在する都である。
 - ②「夫のために飾られた花嫁のように整えられて」という比喩が用いられている。
 - ③私たちは、栄光の体をもってそこに住むようになる。

Ⅲ. 第1の宣言(3~4節)

1. 3節

Rev 21:3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、

- (1) 新しい天と新しい地の幻に続いて、2つの宣言が聞こえてくる。
 - ①第1の宣言は、神が人とともに住んでくださるという約束である。
- (2) 「神の幕屋が人とともにある」
 - ①シャカイナ・グローリー(神の栄光)が人とともにあるという意味である。
 - *旧約聖書では、シャカイナ・グローリーは幕屋の中の至聖所に宿った。
 - *この宣言は、ヘブル12:22~24の成就である。
 - ②私たちは、新しいエルサレムで永遠にシャカイナ・グローリーに囲まれて生活するようになる。
- (3) 「神ご自身が彼らとともにおられて、」
 - ①創造主と被造物を遮断するものは、何もなくなる。
 - ②私たちは、神と直接的に交わるようになる。

2. 4節

Rev 21:4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、

苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

(1) 「彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってください」

- ①新しいエルサレムにも、悲しみがあるという意味ではない。
- ②悲しみの原因が、すべて取り去られるという意味である。
- ③そこには、涙を流す理由がないのである。

(2) 創世3：16～19ののろいがすべて取り去られる。

- ①アダムとエバが罪を犯したとき、のろいが被造世界に侵入してきた。
- ②それが、死であり、病であり、悲しみであり、苦しみであった。
- ③古い秩序と世界がすべて消え去り、罪から来たのろいも取り去られた。

IV. 第2の宣言（5～8節）

1. 5節

Rev 21:5 すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」

(1) 第2の宣言は、すべてを新しくするという約束である。

- ①これは、新しい天と新しい地が確実に創造されるという約束である。
- ②これらのことばを書きしるせ、との命令が与えられる。
- ③神が、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実である」と言われる。

*これ以上の保証はない。

2. 6～7節

Rev 21:6 また言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。

Rev 21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

(1) 「事は成就した」

- ①全能の神が、計画の完成を宣言された。
- ②神が約束されたことは、すべて成就する。

(2) 「わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である」

- ①神の永遠性と全能性を表現する御名である。

(3) 「いのちの水の泉」が用意されることが約束された。

①これは、信じる者が無代価で受けることのできる祝福である。

②この水は、永遠に渇きを癒す水である。

Joh 4:13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。

Joh 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」

(2) 信者が相続するもの

①「勝利を得る者」とは、信者のことである。

②「これらのもの」とは、新しい天と新しい地、新しいエルサレムのことである。

③私たちは、神の子としてこれらのものを相続する。

*これは、朽ちていく財産ではない。

3. 8節

Rev 21:8 しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。」

(1) 不信者が相続するもの

①それは、「火と硫黄との燃える池の中」にある。

②それは、第二の死のことである。

③「火と硫黄との燃える池の中」に投げ込まれることを、「第二の死」と呼ぶ。

(2) 黙示録のメッセージを真剣に受け止めるなら、私たちの世界観は革命的に変化せざるを得なくなる。

結論

1. ガラ 4:25~26

Gal 4:25 このハガルは、アラビヤにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、彼女はその子どもたちとともに奴隷だからです。

Gal 4:26 しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です。

(1) パウロは、律法による義と信仰による義を対比させている。

(2) それは、奴隷の子と自由の子の対比でもある。

①ハガルとサラの対比

②地上のエルサレムと天のエルサレムの対比

③地上のエルサレムはローマの奴隷であり、天のエルサレムは自由である。

(3) 律法による義を求めるなら奴隷の子になり、信仰による義を求めるなら自由の子になる。

2. ヘブ 11：9～10

Heb 11:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。

Heb 11:10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

(1) アブラハムは、地上では寄留者として生活した。

- ①彼は、忍耐深く生活することができた。
- ②神の約束を信じたからである。

(2) アブラハムは、2つのものを待ち望んだ。

- ①約束の地が与えられること
- ②天の都が与えられること

3. ヘブ 12：22～24

Heb 12:22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。

Heb 12:23 また、天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者である神、全うされた義人たちの霊、

Heb 12:24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血に近づいています。

(1) 「新しいエルサレム」は、以下のグループにとって永遠の住まいとなる。

- ①三位一体の神がそこに臨在される。
- ②無数の御使いたちがそこに住む。
- ③教会時代の聖徒たちもそこを永遠の住まいとする。
- ④「全うされた義人たち」（旧約時代の聖徒たち）も、そこに住む。
- ⑤大患難時代と千年王国の期間に救われた聖徒たちも、そこに住むようになる。

*これは、書かれていない。

(2) アブラハムの信仰から教訓を学ぼう。

- ①信仰義認の原則
- ②終末を見据えた人生

「新しいエルサレムの特徴（前半）」

黙 21 : 9～27

1. はじめに

(1) 旧約聖書の預言のハイライトは、メシア的王国である。

①黙示 20 章は、メシア的王国が千年で終わることを啓示している。

②黙示 21 章と 22 章は、千年王国の先に何があるかを啓示している。

*創世 1 章以来続いていた被造世界は過ぎ去り、新天新地が創造される。

*新しいエルサレムが天から下ってくる。

③今回は、新しいエルサレムの情景について学ぶ。

2. アウトライン

(1) 聖なる都エルサレムの啓示 (9～10 節)

(2) 聖なる都エルサレムの特徴 (前半)

①神の栄光 (11 節)

②城壁 (12～13 節)

③城壁の土台 (14 節)

④広大な面積 (15～17 節)

⑤材質 (18～21 節)

⑥不要になったもの (22～23 節)

⑦聖徒たちだけが入る (25～27 節)

3. 結論

(1) 永遠の住まいは神からの贈り物

(2) エゼ 28 : 13 との比較

新しいエルサレムについて学ぶ。

I. 聖なる都エルサレムの啓示 (9～10 節)

1. 9 節

Rev 21:9 また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。「ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。」

(1) 7つの鉢を持っていた御使いのひとりが、ヨハネに語りかけた。

①「ここに来なさい」は、より高い次元で神の啓示を見せようとするもの。

②「小羊の妻である花嫁」とは、新しいエルサレムのことである。

2. 10 節

Rev 21:10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せた。

(1) ヨハネは、聖なる都エルサレムが天から下って来るのを見た。

①黙 21 : 2

Rev 21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。

②きょうの箇所は、「再記述の原則」で読み解く必要がある。

③創 1 章と 2 章がその例である。1 章の内容が、2 章で詳細に解説されている。

④聖なる都エルサレムの特徴が、黙 21 : 11～22 : 5 に書かれている。

* 合計 11 の特徴が記されている。

II. 聖なる都エルサレムの特徴（前半）

1. 神の栄光（11 節）

Rev 21:11 都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。

(1) 神の栄光とは、シャカイナグローリーのことである。

①旧約時代には、幕屋と神殿の中にシャカイナグローリーが宿った。

②新約時代には、主イエスの内にシャカイナグローリーが宿った。

③最終的には、聖なる都エルサレムにシャカイナグローリーが宿ることになる。

(2) ヨハネは、人間の言葉では描写できないことを伝えようとしている。

①この都の麗しさは、私たちの想像を遙かに超える。

2. 城壁（12～13 節）

Rev 21:12 都には大きな高い城壁と十二の門があつて、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあつた。

Rev 21:13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があつた。

(1) 城壁は、この都に与えられる神の守りを象徴している。

①この都は、高い城壁で囲まれている。高さに関しては、まだ説明されていない。

②城壁は、資格のない者はこの都に入れないことの象徴である。

(2) 城壁には 12 の門があり、それを守る天使が任命されている。

- ①一つの門に対して、ひとりの天使が置かれている。
- ②12の門には、イスラエルの12部族の名前が記されている。
 - *イスラエルの12部族の名前は、永遠に覚えられる。
 - *救いはユダヤ人から来ることを記憶するためであろう（ヨハ4:22）。
 - *旧約時代の聖徒たちも、この都の住民であることが暗示されている。
- ③城壁は東西南北の4面からなっており、各面に3つの門が配置されている。
 - *住民は、自由に出入りすることができる。
 - *聖徒たちは、新しいエルサレムの外で住むこともできるのである。

3. 城壁の土台（14節）

Rev 21:14 **また、都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。**

- (1) 土台石は、都の永続性を表わしている。
 - ①聖なる都エルサレムは、永遠に続く。
 - ②土台石には、12使徒の名前が記されている。
 - ③教会は、使徒と預言者という土台の上に建てられた（エペ2:20）。
 - ④教会時代の信者は、この都の住民となることが暗示されている。
 - ⑤ヨハネは、自分の名前がそこに記されているのを見た。

4. 広大な面積（15～17節）

Rev 21:15 **また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。**

Rev 21:16 **都は四角で、その長さと幅は同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオオンあった。長さも幅も高さも同じである。**

Rev 21:17 **また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュスあった。これが御使いの尺度でもあった。**

- (1) 都は、長さも幅も高さも全く同じ立方体の形をしている。
 - ①1辺の長さは、1万2,000スタディオオンとある（2,200キロメートル以上）。
 - *象徴的な数字と解釈しなければならない理由は、何もない。
 - ②これは、人類の歴史上最大の規模の都市である。
 - ③あらゆる時代の聖徒たちが住むのに十分なスペースが確保できる。
 - ④ソロモンの神殿の至聖所は、立方体であった。

1Ki 6:20 **内堂の内部は、長さ二十キュビト、幅二十キュビト、高さ二十キュビトで、純金をこれに着せた。さらに杉材の祭壇にも純金を着せた。**

- ⑤この都は、永遠の至聖所としての役割を果たす。

(2) 城壁の高さを測ってみると、144ペーキュスあった。

①約65メートルである。

②黙21:12に「大きな高い城壁」とあった。

5. 材質(18~21節)

Rev 21:18 その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。

Rev 21:19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四は緑玉、

Rev 21:20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑玉髄、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。

Rev 21:21 また、十二の門は十二の真珠であった。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。

(1) 驚くべき景観

①城壁は碧玉でできている。

②都そのものは、「混じりけのないガラスに似た純金」でできている。

*つまり、透明に近い純金だというのである。

*私たちには見たこともない新しい材質である。

*以下の12種類の宝石も、新しい材質であろう。

*ヨハネは、描写不可能な情景を、自分が知っている言葉で表現している。

(2) 城壁の土台石は、12種類の宝石で飾られている。

①第一の土台石は碧玉(緑)

②第二はサファイヤ(青)

③第三は玉髄(緑がかった色)

④第四は緑玉(緑)

⑤第五は赤縞めのう(赤と白)

⑥第六は赤めのう(燃えるような赤)

⑦第七は貴かんらん石(黄金色)

⑧第八は緑柱石(深緑)

⑨第九は黄玉(緑黄色)

⑩第十は緑玉髄(黄金色の緑)

⑪第十一は青玉(青)

⑫第十二は紫水晶(紫)

(3) 12の門は、12の真珠であった。

①ひとつの門が、ひとつの巨大な真珠でできていた。

6. 不要になったもの (22～24節)

Rev 21:22 私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。

Rev 21:23 都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。

Rev 21:24 諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。

(1) 新しい天と新しい地には、海がなくなる。

①これはすでに見た（黙 21 : 1）。

(2) 神殿がなくなる。

①4つの神殿

* ソロモンの神殿

* 捕囚から帰還して建てられた第二神殿

* 患難時代の第三神殿

* 千年王国時代の神殿

②聖なる都エルサレムにおいては、神殿の必要性がなくなる。

* 三位一体の神ご自身がそこに臨在し、神殿になってくださる。

* 神に会うために特定の場所に行く必要がなくなる。

(3) 太陽と月がなくなる。

①シャカイナグローリーが都を照らし、小羊が都のあかりとなってくさる。

②異邦人たち、地の王たちは、この光に導かれて生活をするようになる。

* 「諸国の民」とは、異邦人を指す言葉である。

* この個所から、ユダヤ人と異邦人の区分は、永遠に続くことが分かる。

③彼らは、神に栄光を帰すためにこの都に来る。

* イスラエルも異邦人も、それぞれの方法で神の栄光を表わす。

7. 聖徒たちだけが入る (25～27節)

Rev 21:25 都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜がないからである。

Rev 21:26 こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。

Rev 21:27 しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。

- (1) 聖徒たちだけがこの都に入ることができる。
 - ①真珠でできた12の門は、永遠に開け放たれたままである。
 - ②なぜなら、その都には夜がないからである。
 - ③闇は罪から来る呪いの一部として地上に現われた。
 - ④罪のない世界では、やみを取り去られるのである。
 - ⑤栄光の体に変えられた聖徒たちは、眠る必要がなくなる。

- (2) その門をくぐって都に入るのは、「小羊のいのちの書」にその名が書かれた者だけである。
 - ①贖われた聖徒たちだけが都に入る。
 - ②罪人たちは、第2の死によって「火の池」に閉じ込められている。
 - ③自力でこの都に入れる者は、ひとりもない。

結論

1. 永遠の住まいは神からの贈り物

- (1) 聖なる都エルサレムに関する啓示は、黙21:9~22:5に記録されている。
- (2) 神が啓示してくださなければ、そこがどのような場所であるかは分からない。
- (3) この都に関する啓示の量は、ほんのわずかである。
 - ①永遠の住まいの様子を狭い隙間から垣間見ただけである。
 - ②私たちは、贈り物を開ける前の子どものような思いで、永遠の住まいに行く日を待ちわびる。
- (4) 1コリ2:9

1Co 2:9 まさしく、聖書に書いてあるとおりです。／「目が見たことのないもの、／耳が聞いたことのないもの、／そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。／神を愛する者のために、／神の備えてくださったものは、みなそうである。」

2. エゼ28:13との比較

Eze 28:13 あなたは神の園、エデンにいて、／あらゆる宝石があなたをおおっていた。／赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、／緑柱石、しまめのう、碧玉、／サファイヤ、トルコ玉、エメラルド。／あなたのタンバリンと笛とは金で作られ、／これらはあなたが造られた日に整えられていた。

- (1) サタンの反逆によって、エデンの園はかつての栄光を失った。
- (2) 聖なる都エルサレムは、その栄光を回復したものである。
- (3) さらに、その都には本来のエデンの園以上の輝きを与えられている。
- (4) 永遠の住宅プランができていることを神に感謝しよう。

「新しいエルサレムの特徴（後半）」

黙 22 : 1～5

1. はじめに

(1) 旧約聖書の預言のハイライトは、メシア的王国である。

①黙示 20 章は、メシア的王国が千年で終わることを啓示している。

②黙示 21 章と 22 章は、千年王国の先に何があるかを啓示している。

*創世 1 章以来続いていた被造世界は過ぎ去り、新天新地が創造される。

*新しいエルサレムが天から下ってくる。

③新しいエルサレムの特徴が 11 ある。

*今回は、後半の 4 つについて学ぶ。

2. アウトライン

(3) 聖なる都エルサレムの特徴（後半）

⑧いのちの水の川（1～2 節 a）

⑨いのちの木（2 節 b）

⑩都の住民（3～4 節）

⑪夜が巡ってこない都（5 節）

3. 結論

(1) 死の意味

(2) 究極的祝福

新しいエルサレムについて学ぶ。

III. 聖なる都エルサレムの特徴（後半）

8. いのちの水の川（1～2 節 a）

Rev 22:1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、

Rev 22:2a 都の大通りの中央を流れていた。

(1) 水晶のように光るいのちの水の川

①この川は、神と小羊との御座から出て、都の大通りの中央を流れている。

②字義どおりに解釈し、実際の川が流れていると受け取ってよい。

③と同時に、この川は、新しいエルサレムにおける霊的祝福の象徴でもある。

④恐らく、「いのちの水の川」は、大河ではなく、幅の狭い川であろう。

*両岸にいのちの木がある。

⑤千年王国において現れる2つの川と混同してはならない。

*神殿の敷居の下から流れ出る川

Eze 47:1 彼は私を神殿の入口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東のほうへと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、宮の右側の下から流れていた。

*エルサレムから流れ出て、死海と地中海に分かれる湧き水

Zec 14:8 その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ、夏にも冬にも、それは流れる。

(2) 神と小羊の御座

①神ご自身が、この川の源である。

②神と小羊がともに御座におられる。

*キリストの神性が証明されている。

③この御座は、千年王国における御座とは異なる。

*千年王国の御座は、神の代理人（王の王）として統治するためのもの。

④新しいエルサレムでは、キリストの統治形態が変化する。

9. いのちの木 (2 節 b)

Rev 22:2b 川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。

(1) いのちの木

①エデンの園に、いのちの木があった。

Gen 2:9 神である【主】は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた。

②アダムが罪を犯したとき、死が被造世界に入ってきた。

③アダムとエバは、エデンの園から追放された。

④新しいエルサレムでは、いのちの木が再登場する。

(2) いのちの木の特長

①いのちの木は、都の大通りの中央を流れるいのちの川の両岸にある。

②その木は、豊かな実を实らせる。

*毎月が収穫期で、12種類の異なった実になる。

*太陽と月の運行に依存しない新しい暦が登場するのであろう。

③この木の葉には、いやしの力がある。

*この葉が病気の治療に用いられるということではない。

*この都には、病気も死もない。

④その木の葉は諸国の民をいやした。

*「セラペイア」という名詞。英語の「セラピー」の語源。

*その葉には病気にかからないような予防的な力があるという意味。

*いのちの木があるので、そもそも新しい都エルサレムには、病人がいない。

(3) いのちの木の祝福

①食べる喜びが与えられる。

*これは、肉体の生存のための食事ではない。

②満ち足りた生活が用意されている。

*この木の葉は、満ち足りた生活を保証してくれる。

10. 都の住民(3~4節)

Rev 22:3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中であって、そのしもべたちは神に仕え、

Rev 22:4 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。

(1) アダムとエバがもたらした呪いが、すべて取り去られる。

①神は、永遠に罪を裁く必要がなくなった。

②あらゆる時代の聖徒たちが、その都の住民となる。

③神と都の住民たちの間に、継続的な交わりがある。

(2) 訳語の比較

「神と小羊との御座が都の中であって、そのしもべたちは神に仕え、神の御顔を仰ぎ見る」(新改訳)

「神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝し、御顔を仰ぎ見るのである」(口語訳)

①原文では、「神に仕え」は「彼に仕え」(単数形)である。

②神と小羊の代名詞は、単数形の「彼」である。

③さらに、「御顔」は、原文では「彼の顔」である。

④これは、三位一体の教理を証明する強力な証拠である。

Joh 10:30 わたしと父とは一つです。」

2Co 13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

(3) 彼らの額には神の名がついている。

①フィラデルフィアにある教会への約束が成就した。

Rev 3:12 勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。

②新しいエルサレムの住民たちは、神が所有する宝の民となったのである。

③彼らは、神に仕え、神を礼拝する。

11. 夜が巡ってこない都(5節)

Rev 22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。

(1) その都には夜がない。

①罪から来たのろいであるやみを取り去られた。

②太陽や月が取り去られ、創造主である神ご自身が都の光源となる。

③贖われた者たちは、シャカイナグローリーに照らされて祝された生活を送る。

(2) 訳文の比較

「彼らは永遠に王である」(新改訳)

「彼らは世々限りなく統治するからである」(新共同訳)

「彼らは世々限りなく支配する」(口語訳)

①この都の住民は、なんらかの役割を与えられる。

②ひとつのヒントは、1コリ6:2~3にある。

1Co 6:2 あなたがたは知らないのですか。聖なる者たちが世を裁くのです。世があなたがたによって裁かれるはずなのに、あなたがたにはささいな事件すら裁く力がないのですか。

1Co 6:3 わたしたちが天使たちさえ裁く者だということを、知らないのですか。まして、日常生活にかかわる事は言うまでもありません。

③今は天使の方が人間よりも上であるが、その立場が逆転する。

(3) 11番目の特長は、1番目の特長(シャカイナグローリー)と似ている。

①再度、1番目に戻って、11の特長を学び直してもよい。

結論

1. 死の意味

(1) アダムとエバが罪を犯したとき、罪がこの世界に侵入した。

(2) 神は、彼らをエデンの園から追放された。

Gen 3:22 神である【主】は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりのようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」

Gen 3:23 そこで神である【主】は、人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。

Gen 3:24 こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。

①追放した理由は、彼らが永遠に生きないようにするためである。

②エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣が置かれた。

(3) これは、神の恵みによる行為である。

①墮落した状態で、いつまでも生きるのは、実に悲惨なことである。

②神は、死を通して、地上生涯の苦しみに終止符を打って下さる。

(4) 黙示録 21 章、22 章で、楽園の回復が約束されている。

①死は、神を信じる者にとっては、その楽園に到達するための通過点である。

2. 究極的祝福

(1) 神との継続的な交わり

①旧約時代には、神を見ると死ぬとされていた(出 33:20~23)。

②聖なる都では、「神は彼らとともに住み、彼らはその民となる」(黙 21:3)。

③詩 16:11

Psa 16:11 あなたは私に、いのちの道を／知らせてくださいます。／あなたの御前には喜びが満ち、／あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。

④私たちは、罪から解放され、罪のない世界に住むようになる。

⑤神の御前で味わう喜びと楽しみは、今は想像できないようなものである。

(2) 黙示録 21 章、22 章に約束されていることは、必ず成就する。

①1 コリ 13:12

1Co 13:12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見ることとなります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることとなります。

②1 ヨハ 3:2

1Jn 3:2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。

③それゆえ、黙示録を学ぶことは、聖く生きるための力となる。

(3) 今の時点でも、信仰によって神の御座に近づくことができる。

①へブ4:15~16

Heb 4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。

Heb 4:16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

「結末」

黙 22 : 6～21

1. はじめに

(1) 黙示 21 章と 22 章で、新しいエルサレムについて学んだ。

- ①新しいエルサレムには、11 の特徴がある。
- ②そこが私たちの永遠の住まいとなる。

(2) きょうの箇所は、黙示録の結末（エピローグ）である。

- ①ヨハネは、黙示録の預言が信頼できるものであることを、再確認している。
- ②さらに、神の恵みがいかに大きなものであるかを、再確認している。

2. アウトライン

- (1) 再臨の希望 (6～7 節)
- (2) ヨハネによる礼拝 (8～9 節)
- (3) この書の預言を宣告せよとの命令 (10～11 節)
- (4) 報いの確実性 (12 節)
- (5) 永遠のキリスト (13～16 節)
- (6) 御霊と花嫁による招き (17 節)
- (7) 最後の警告 (18～20 節)
- (8) 祝祷 (21 節)

3. 結論：キリストの再臨は近いという意味について

黙示録の結末について学ぶ。

I. 再臨の希望 (6～7 節)

1. 6 節

Rev 22:6 御使いはまた私に、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実なのです」と言った。預言者たちのたましいの神である主は、その御使いを遣わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示そうとされたのである。

(1) 御使いは、ヨハネが書いてきた内容は、信ずべきものであり、真実であると言う。

- ①情報の源は、「忠実また真実」(黙 19 : 11) と呼ばれる神である。
- ②神が、御使いを遣わして、ヨハネに啓示を与えた。
- ③預言者たちに啓示を与えてきた神ご自身が、ヨハネにこれらの啓示を与えた。

(2) 啓示の内容は、「**すぐに起こるべき事**」である。

- ①神のしもべたちは、常に警戒している必要がある。
- ②さらに、この啓示によって苦難に打ち勝つ力を得ることができる。

2. 7 節

Rev 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

(1) 本書の冒頭で、この書を読み、その内容を心に留める者に祝福が約束されていた。

Rev 1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

- ①この祝福の約束が、再度くり返される。
- ②「**この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである**」
 - * 「**堅く守る**」とは、「心に留め、見張っている状態」を言う。
 - * この約束の成実は、キリストの再臨によって保証されている。

(2) 祝福の約束が明確に書かれているのは、黙示録だけである。

- ①そういう意味で、黙示録は特別な書であると言える。
- ②黙示録は、聖書の啓示全体を要約した書である。

II. ヨハネによる礼拝 (8~9 節)

1. 8 節

Rev 22:8 これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見たとき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとした。

(1) 天使は、人間の目には畏怖の念を抱かせる栄光に富んだ存在である。

Mat 28:2 すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。

Mat 28:3 その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。

Mat 28:4 番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。

(2) ヨハネは、ひれ伏して、御使いを拝もうとした。

- ①御使いは、ヨハネに驚くべき啓示を与えてくれたので、この応答が生まれた。
- ②しかし、彼の応答は間違っている。
- ③思わず天使を礼拝しようとした彼の気持ちは、理解できる。

2. 9節

Rev 22:9 **すると、彼は私に言った。「やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守る人々と同じしもべです。神を拝みなさい。」**

(1) 神以外の人物や物を拝むのは、偶像礼拝である。

①天使礼拝もまた偶像礼拝である。

Col 2:18 **あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようとしたり、御使い礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇り、**

Col 2:19 **かしらに堅く結びつくことをしません。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです。**

(2) 天使の言葉は、ヨハネが記録した内容が真実なものであることを認証している。

①天使もまた私たちと同じく、神に仕えるものである。

②神だけを礼拝せよ。

(ILL) カトリック教会のマリア礼拝、聖人の存在

III. この書の預言を宣告せよとの命令 (10~11節)

1. 10節

Rev 22:10 **また、彼は私に言った。「この書の預言のことばを封じてはいけない。時が近づいているからである。」**

(1) ダニエルは、預言のことばを封じておくように命じられた。

Dan 12:4 **ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと探り回ろう。」**

①ダニエル書は、長期にわたる出来事を預言した膨大な書である。

②ダニエル自身が、自分の書いていることを十分に理解できなかった。

③それで神は、終わりの時が来るまで、そのことばに封印をするように命じた。

(2) ダニエル書の預言は、黙示録によって明らかになった。

①それゆえ、黙示録の預言は、封じてはいけないのである。

②黙示録の預言が成就する時が近づいている。

2. 11節

Rev 22:11 **不正を行う者はますます不正を行い、汚れた者はますます汚れを行いなさい。正しい者はいよいよ正しいことを行い、聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい。」**

(1) キリストの再臨に続いて、人々の運命が2分され、確定する。

- ①黙示録の内容を受け入れた人は、ますます清潔に進む。
- ②しかし、汚れた者たちは黙示録を拒否し、その汚れは、さらにひどくなる。

IV. 報いの確実性 (12 節)

1. 12 節

Rev 22:12 「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。

- (1) キリストは、罪人をそのわざに応じて裁くために帰って来られる。
 - ①彼らは、「白い御座の裁き」を通過する (黙 20 : 11~15)。
- (2) 聖徒たちは、その前に携挙を受け、祝福のための裁きを通過する。
 - ①小羊の血潮によって贖われた者たちは、罪の裁きから免れている。
 - ②聖徒たちに与えられる褒賞は、信者になってからの行為に基づいて決まる。
 - ③「キリストの裁きの座」 (1 コリ 3 : 11~15、2 コリ 5 : 10)

V. 永遠のキリスト (13~16 節)

1. 13 節

Rev 22:13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」

- (1) 「初めであり、終わりである」とは、旧約聖書での表現である。

Isa 44:6 イスラエルの王である【主】、これを贖う方、／万軍の【主】はこう仰せられる。／「わたしは初めであり、／わたしは終わりである。／わたしのほかに神はない。

- ①キリストは、永遠の昔から永遠の未来に至るまで存在するお方である。
- ②さらにキリストは、全能なる神である。

- (2) この神性宣言は、聖徒たちに励ましと確信を与えるものである。

- ①黙示録の内容は、完全に信頼できるものである。
- ②神は、私たちを完全に救うことのできる方である。

2. 14 節

Rev 22:14 自分の着物を洗って、いのちの木の実を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入るようになる者は、幸いである。

- (1) 小羊の血潮によって贖われた者だけが、新しいエルサレムに住むことができる。
 - ①1 ペテ 1 : 18~19

1Pe 1:18 ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、

1Pe 1:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

②贖われた者は、罪から完全に清められている。

(2) 彼らは、新しい都の住民となり、いのちの木の實を食べる。

①彼らは、その都で永遠に生きる。

3. 15 節

Rev 22:15 犬ども、魔術を行う者、不品行の者、人殺し、偶像を拝む者、好んで偽りを行う者はみな、外に出される。

(1) 贖われていない者たちの悲惨な状態が描写されている。

①彼らは、絶対にその都にはいることを許されない。

②彼らは、「燃える火の池」で苦しむ。

4. 16 節

Rev 22:16 「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」

(1) イエスは、ヨハネに啓示を与えたのは自分であると宣言する。

①黙1:1

Rev 1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。

②イエスから与えられた啓示であるがゆえに、ヨハネの黙示録は信頼できる。

(2) イエスの本質

①イエスは、「ダビデの根、また子孫」である。

*つまり、人間としてはダビデの子孫として誕生したということ。

②さらに、「輝く明けの明星」である。

*これは、イエスの神性を表わしている。

*明けの明星が輝くように、イエスはシャカイナ・グローリーで輝く。

③「明けの明星」は、民24:17との関連でメシアを指すタイトルである。

Num 24:17 私は見る。しかし今ではない。／私は見つめる。しかし間近ではない。／ヤコブから一つの星が上り、／イスラエルから一本の杖が起こり、／モアブのこめかみと、／すべての騒ぎ立つ者の脳天を打ち砕く。

- ④「明けの明星」は、靈的暗黒時代の終わりが近いことを示している。

VI. 御霊と花嫁による招き（17節）

1. 17節

Rev 22:17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください」と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。

- (1) 「来てください」なのか、「来なさい」なのか。
- ①「来てください」なら、キリストに向けた招きになる。
 - ②「来なさい」なら、この書を読む者への招きになる。
 - ③文脈上は、「来なさい」と訳すべきであろう。
*これは、罪人に差し出された「永遠のいのちへの招き」である。
- (2) 御霊と教会が協力して、罪人を招いている。
- ①招きの言葉を伝えるのは、教会の役割である。
 - ②そのことばを聞いた人を悔い改めに導くのは、御霊の役割である。
 - ③「渇く者」とは、罪人のことである。
 - ④聖なる都にある「いのちの水」を飲むのは、キリストを信じた者だけである。
 - ⑤人は、ただで救いを受ける。
- (3) 神は、聖書の最後に至るまで、罪人を招いておられる。

VII. 最後の警告（18～20節）

1. 18節

Rev 22:18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。

- (1) イエスからの警告のことばが、2つ伝えられる。
- ①この時代、著者が自分の書の最後に警告文を載せることはよくあった。
 - ②写本を作る書記への警告である。
- (2) 最初の警告は、黙示録の預言に何かつけ加えることを禁止するものである。
- ①そのような人は、この書に書かれていた災害を受けることになる。
 - ②預言に余計なものをつけ加えることは、自らの不信仰の証明である。

2. 19節

Rev 22:19 また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。

- (1) 第2の警告は、この書から何かを取り除くことの禁止である。
 - ①そのような人は、いのちの木の祝福にあずかることができない。
 - ②不信者は、預言のことばを取り除くことによって自らの不信仰を表明している。
- (2) この警告は、第一義的には黙示録の預言に手を入れてはならないというもの。
 - ①黙示録が聖書全体の預言のまとめになっていることを考えると、聖書そのものに手を加えることを禁止したものであるとも考えられる。
 - ②異端的宗教の特徴は、聖書以外に、自分たちの聖典を所有していることである。
- (3) この警告は、一度救われた者でも、救いを失う可能性があるということではない。
 - ①真に救われている者は、聖書のすべてを神のことばと受け止めることができる。
 - ②この警告は、自由主義神学者への警告にもなっている。

3. 20節

Rev 22:20 これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」**アーメン。主イエスよ、来てください。**

- (1) 主イエス自身が、証人になられる。
 - ①「しかり。わたしはすぐに来る」
 - ②再臨は、いつ起こってもおかしくない。
 - (2) 聖徒たちの応答
 - ①「アーメン。主イエスよ、来てください」
 - ②「来てください」は、アラム語のマラナ・タから来ている。
- 1Co 16:22** 主を愛さない者はだれでも、のろわれよ。主よ、来てください。
 - ③新約時代の聖徒たちが使用していたあいさつの言葉である。
 - ④キリストの再臨は、あらゆる時代の聖徒たちの希望である。

VIII. 祝祷

1. 21節

Rev 22:21 主イエスの恵みがすべての者とともにあるように。アーメン。

- (1) 黙示録は、祝祷をもって終わっている。

①無代価で得られる永遠のいのちへの招きである。

結論：キリストの再臨は近いという意味について

はじめに

(1) 黙示録に、「見よ。わたしはすぐに来る」という約束が4回出てくる。

①黙3:11

②黙22:7

③黙22:12

④黙22:20

(2) しかし、この約束が与えられてから約2000年が経過した。

1. キリストは、すぐにでも地上に帰ってこられる可能性があるという意味である。

(1) そういう意味で、再臨は差し迫っている。

(2) 信者は、その時を知らないので、常に霊的に目を覚ましている必要がある。

2. 神の視点から見ると、「すぐに」である。

(1) 今は、終わりの時に入っている。

Heb 1:2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

Jas 5:9 兄弟たち。互いにつぶやき合ってははいけません。さばかれないためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。

(2) すぐに新しい時代が来ようとしてる。

Rom 13:12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。

1Pe 4:7 万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。

3. なぜ神はもっと急がれないのか。

(1) 神の忍耐の現れである。

2Pe 3:9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

(2) その忍耐の時も、やがて終わりを迎える。

(3) 黙示録ほど、信者と不信者の永遠の運命の違いを啓示している書はない。